

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 1, 月 / Mon 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586027601	科目番号 / Course code	05860276
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 15081_005		
授業科目名 / Course title	● A1日本のことばと世界のことば / Languages in Japan and the world		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	原田 走一郎 / Soichiro Harada, 吉村 大樹 / Yoshimura Taiki		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	原田 走一郎 / Soichiro Harada		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	原田 走一郎 / Soichiro Harada, 吉村 大樹 / Yoshimura Taiki		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟44 / RoomB-44		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	haradaso▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	総研棟12階		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールで予約をとること。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	日本語の特徴を、特に世界の他の言語や方言との比較に基づいて、理解する。		
授業到達目標/Course goals	日本語を冷静に分析することができるようになる。 日本語の特徴を理解することができるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☒ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☒ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	10点の課題×7 最終試験30点		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	本講義では事前学習を重視する。事前学習として教科書に掲載されている問題を解いてきて、その情報を他の学生と共有しながら授業を進める。そのため、事前学習を行っていない学生がいると、他の学生の迷惑になる。(4h)		
キーワード/Keywords	日本語学、言語学、音声学		
教科書・教材・参考書/Materials	<教科書> 松丸真大・白岩広行・原田走一郎・平塚雄亮『ワークブック 方言で考える日本語学』くろしお出版		
受講要件(履修条件) / Prerequisites			
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948		
備考/Remarks	対面での実施。		
学生へのメッセージ/Message for students			

実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	吉村大樹 / 日本語教師 / 日本語に関する授業
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1	イントロダクション
2	音声・音韻1
3	音声・音韻2
4	音声・音韻3
5	形態素・語
6	文・格
7	複文
8	活用
9	ヴォイス
10	テンス・アスペクト
11	モダリティ1
12	モダリティ2
13	待遇表現
14	語彙
15	言語変化

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586032501	科目番号 / Course code	05860325
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 16241_005		
授業科目名 / Course title	● A1世界と日本の陶磁器文化交流 / Ceramics Cultural Exchange between the World and Japan		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	野上 建紀 / Takenori Nogami		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	野上 建紀 / Takenori Nogami		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟13 / RoomA-13		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nogami-takenori ▲ nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟11階 野上研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2919		
担当教員オフィスアワー/Office hours	随時(メールにて要事前連絡)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	考古学の資料の中でも陶磁器は、最も多く出土するものの一つである。壊れやすくて、再利用が難しいことから、廃棄されやすく、かつ土中や水中にあって消失することなく残るからである。また、世界各地で生産され、それぞれの地域や時代を映す「鏡」となることから最も重要な資料の一つでもある。陶磁器を観察すれば各地域の文化や相互の影響関係も理解することができるのである。長崎県産をはじめとした日本の陶磁器も世界各地の需要に応えた時期があり、それは長崎から運ばれていた。陶磁器を通して、その背後にある文化交流を読み解き、日本と世界の関わりを理解できるようになることが授業の目的である。		
授業到達目標/Course goals	1. 世界に輸出された長崎県をはじめとした日本の陶磁器について説明することができるようになる。 2. 長崎県の波佐見焼などの日本の陶磁器が世界に与えた影響を説明することができるようになる。 3. 世界情勢で長崎県の波佐見焼などの日本の陶磁器の輸出が発展した過程を説明することができるようになる。 4. 日本(特に長崎)と海外との関わりを示す考古資料を説明することができるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	□汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity □主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over □B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	レポート・小課題の提出状況 50~70点(合計点を50~70点満点で換算)、最終試験(あるいは最終レポート) 30~50点の計100点		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】授業の最後に次回の内容について説明しますので、関連する資料を確認するようにしてください。(2h) 【復習】授業で配布された資料を整理し、授業の内容について理解を深めるようにしてください。(2h)		
キーワード/Keywords	陶磁器、文化交流、水中考古学		
教科書・教材・参考書/Materials	『陶磁考古学入門』(2021年 勁草書房)		
受講要件(履修条件) / Prerequisites	授業内容に関連する長崎市内の施設・遺跡の見学を授業の予復習とする。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は基本的に対面で行いますが、一部の時間はオンラインで行います。
学生へのメッセージ/Message for students	質問や相談は気軽に研究室へ（事前にメールをください。）
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	野上 建紀 / 有田町歴史民俗資料館での勤務経験（25年間） / 埋蔵文化財を中心とした文化財保護行政と資料館の学芸業務の経験を生かして、考古学と社会の関わりについても説明する。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1/2回	考古学入門
第3/4回	水中考古学入門
第5/6回	陶磁考古学
第7/8回	沈没船研究
第9/10回	海外輸出された伊万里（１）
第11/12回	海外輸出された伊万里（２）
第13/14回	青のテーマ、海のシルクロード
第15/16回	質疑応答、最終試験またはレポート

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 1, 月 / Mon 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586033301	科目番号 / Course code	05860333
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 16281_005		
授業科目名 / Course title	●A2生活・経済活動と法 / Legal System on Life and Economic Affairs		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	井畑 陽平		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	井畑 陽平		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	井畑 陽平		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟33 / RoomA-33		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	ibata▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	経済学部		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	原則として、水曜15時～16時とする。研究室が片淵キャンパスにあるため、メールか、講義後に教室にて質問されることを推奨する。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	生活や経済活動をする上で生じうる問題について、法律が、実際どのように解決しているのかを学習する。		
授業到達目標/Course goals	日常生活や経済活動と法と関わりについて理解する 法的なものの考え方(法的思考方法)について理解する これらを通じて、日常生活や経済活動を行ううえで生じる紛争について、どのような機能と役割を果たしているかを理解できるようになる		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	□汎用的能力 / Generic Competence ■倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives □C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ■D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	講義終了時に、随時、課題レポートの提出を求める。基本的には、提出された課題レポートの成果により、評定する(90%)。 なお、特に、講義中、教員が投げかけた質問に対して積極的に意見を述べたり、講義内容に即した質問を教室で共有した学生について、申告に応じて積極的に加点したい(10%)。 なお、履修者多数(今のところ、50名を基準として考える予定)のとき、定期試験(100%)により評定することとしている。 このあたりは、履修者数に左右されるため、詳細は、講義時、教室で周知する。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前予習としては、配付される講義資料に目を通し、よく分からない用語について辞書等で調べることが求められる(2h)。事後学習としては、講義で得た知識をノート等に整理することが求められる(2h)。		
キーワード/Keywords	民事法、刑事法、行政法、法的三段論法		
教科書・教材・参考書/Materials	参考書として、 有斐閣が刊行する『ポケット六法』最新版(2023年度第3Qであれば、令和6年版、となる)		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	講義資料（レジュメ等）は、LACSに掲示します。基本的に教室で配付しないので、必要であれば、各自で印刷して教室に持参すること。履修する学生が多いときには、講義時間中に、教室でアクセスしにくいケースもあるので、ダウンロードしたり、予め印刷したりするようにお願いします。 できれば、有斐閣が刊行する『ポケット六法』最新版を入手して下さい。これから先の人生のお供に、1冊手元にあってもよいと思います。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948
備考/Remarks	授業は対面形式とオンライン形式（オンデマンド）のハイブリット型で実施します。詳細については、初回に相当する講義資料（LACSに掲示する）で説明します。状況によっては、あらかじめ告知した上で変更する場合があります。LACSを通じて連絡します。
学生へのメッセージ/Message for students	https://www.courts.go.jp/saikosai/index.html 最高裁判所 https://www.nichibenren.or.jp/ 日本弁護士連合会 http://www.kensatsu.go.jp/top.shtml 検察庁 たまには、このようなサイトをご覧になるのもよいかもしれません。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	井畑陽平 / JICAの途上国政府関係者向け研修講師を務めた経験を活かし、学生の視野を広げるとともに、それを身に付けるために自らが考え行動することを促す。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1	イントロダクション（講義進行についてのガイダンス）
2	消費者被害と民法、刑法、行政法
3	金銭貸借（お金の貸し借り）と民法、刑法・行政法
4	交通事故と民法、民法、行政法
5	路上喫煙と行政法、刑法、民法
6	短期雇用（アルバイト）と民法、刑法、行政法
7	生活保護と民法、行政法、刑法
8	廃棄物（ゴミ）の不法投棄と民法、行政法、刑法
9-11	社会における格差の解消と行政法、刑法、民法
12-14	家族関係と法——行政法、民法、刑法
15	授業内容の確認と総括

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 1, 月 / Mon 2
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592005101	科目番号 / Course code	05920051
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●A2企業活動と社会 / Corporate Activity and Society		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	林 麗桂 / LIN Ligu		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	林 麗桂 / LIN Ligu		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	林 麗桂 / LIN Ligu		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟33 / RoomA-33		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	linty1210▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	経済学部本館531号室		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜日～金曜日(土日・祝日を除く) 10:00~20:00		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	企業は経営組織の1つの形態として社会を構成し影響を与えています。経営組織は、環境に依存しながら、目的を定め、組織メンバーの参加およびコミュニケーションによる調整や意思決定を通じて活動します。経営組織論とは、組織の活動や諸力のシステムを理解することに役立つ理論的枠組みに関する領域です。本講義では、企業組織に焦点を当て、「組織とは何か」について基本的概念を中心に学びます。また、本講義では、企業事例や演習などを通じて、経営組織の定義・システム・プロセスに関する理解を深めます。		
授業到達目標/Course goals	・経営組織論に関する基本概念や理論を身に付けます。 ・事例や演習を通して、現代組織が個人にもたらすこと、個人が組織に与えるといった相互関係を理解します。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness ■考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐B.多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives ☐C.技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills ■D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐F.教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席率(30%) 履修態度(30%) 最終レポートまたは期末試験(40%) 合計60%以上の達成を合格とする		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	予習：シラバスに基づき、各回の学習内容や関係事例について教科書を用いて予習しておく。各回に対応する教科書の各章は前回の講義で伝える。(2h) 復習：講義で提示した理論や事例を活用して、普段自分が参加している「組織」(学校、アルバイト先、ボランティア団体など)を振り返り、「私と組織」の関係について考えながら、演習問題を完成する。(2h)		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	教材：『はじめての経営組織論』(高尾義明、有斐閣、2019)		
受講要件(履修条件) / Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	対面授業を予定。
学生へのメッセージ/Message for students	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1	オリエンテーション：講義内容、実施方法および成績評価方法の説明
2	第1部 組織を捉える基本的な見方 組織の定義
3	組織の成立条件その1 共通目的
4	組織の成立条件その2 コミュニケーションとその調整
5	組織の成立条件その3 貢献意欲
6	第2部 組織の構造とプロセス 合理的システムの設計
7	自生的システムの創発
8	組織プロセス
9	経営資源として変化する人
10	第3部 変数する環境における組織 環境と組織
11	戦略と組織学習
12	イノベーションと組織
13	変化を続ける組織
14	非営利組織
15	最終課題の提出または最終テストの実施

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586020901	科目番号 / Course code	05860209
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 13711_005		
授業科目名 / Course title	●A3核兵器とは何か / Basic Guide to Nuclear Weapons		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	中村 桂子 / Nakamura Keiko		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	中村 桂子 / Nakamura Keiko		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	中村 桂子 / Nakamura Keiko		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟44 / RoomB-44		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nakamurak▲nagasaki-u.ac.jp(メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	核兵器廃絶研究センター2F		
担当教員TEL/Tel	095-819-2865		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日3限(12:50-14:20)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	このクラスでは、核兵器廃絶への道筋を考える際に不可欠な基礎知識として、核兵器の歴史と現状を総合的に俯瞰していきます。具体的には、核兵器とはいかなる特徴を持つ兵器か、世界の国々は核兵器をめぐるどのような政策をとってきたのか、いかなる軍備管理・軍縮努力が行われてきたのか(あるいはこなかったのか)といった点を学びます。		
授業到達目標/Course goals	核兵器をめぐる歴史と現状についての基本的な知識を得るとともに、核兵器のない世界の実現に向けた課題が何かを理解し、解決への具体的方途について学生一人一人が自分の考えを説明できるようになることを期待します。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席点および講義の際のリアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の60%、期末レポートが40%です。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習: 授業内容に関連した時事ニュースなどを読んでおく(1時間)。 事後学習: 授業で使用した参考資料などを読み、理解を深める(1時間)。		
キーワード/Keywords	核兵器、軍備管理、軍縮、抑止		
教科書・教材・参考書/Materials	中村桂子『核兵器のある世界とこれからを考えるガイドブック』法律文化社、2020年を参考書とする。授業をより深く理解するために手元に置いておくことを強く勧める。		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	全回出席が原則。		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948		
備考/Remarks	授業は原則としてすべて対面で行います。		

学生へのメッセージ/Message for students	核兵器廃絶は可能でしょうか??. 答えは「あなた次第」です。核兵器の問題を切り口に、人権問題や環境問題といった人類共通の課題に対し、一人一人の個人がどのように関与していくことができるのか、この授業を通じてぜひ考えてみてほしいと思います。授業で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	中村 桂子/核兵器廃絶研究分野、特定非営利活動法人ピースデボ(横浜)の事務局長の実務経験を有する/特定非営利活動法人ピースデボ(横浜)の事務局長として、核軍縮・不拡散問題に取り組んでいた実務経験に基づき、本授業科目に必要な基本的知識を講義により教授する。/
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	授業の進め方について イントロダクション：現代における核兵器 【対面】
第2回	核兵器の誕生とその特性：核時代の始まりから広島・長崎まで 【対面】
第3回	核兵器の非人道性：被爆者の体験から 【対面】
第4回	核兵器の非人道性：核実験の影響 【対面】
第5回	米国とロシアにおける核兵器体制 【対面】
第6回	米国とロシアにおける核兵器体制 【対面】
第7回	「核の傘」に依存する国々の論理 【対面】
第8回	フランス、中国、イギリス、インド、パキスタン、イスラエルの核兵器とその論理 【対面】
第9回	核不拡散体制の現状と課題 【対面】
第10回	日本の核政策 【対面】
第11回	世界の非核兵器地帯 【対面】
第12回	北朝鮮の核問題 【対面】
第13回	「核兵器のない世界」に向けた取り組み 【対面】
第14回	「核兵器のない世界」に向けた取り組み 【対面】
第15回	まとめ：核兵器廃絶に向けて「私たちにできること」 【対面】

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586021301	科目番号 / Course code	05860213
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 13721_005		
授業科目名 / Course title	● A3国際社会と平和 / Peace and International Society		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	河合 公明		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	河合 公明		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	河合 公明		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟44 / RoomB-44		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kawai ▲ nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	核兵器廃絶研究センター 2階 研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2204		
担当教員オフィスアワー/Office hours	アポイントメントによる		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	このクラスは、核兵器廃絶を考えるうえで、その背景となる国際社会の基本的な特徴とその分析方法の基礎を学び、学生一人一人が、国際社会の特徴を踏まえたうえで、自分なりに平和へ至る方向を探る姿勢を見出せるようになることを目的とします。		
授業到達目標/Course goals	具体的な到達目標としては、国際社会を分析するための基本的な社会科学の知識と方法を身につける、国際社会の特徴を理解する、そして国際社会の特徴を踏まえたうえで、自分なりに平和のために必要なアプローチを構築する、の三点について、その成果を少なくとも同じ講義を受講している他の学生に対し、説得的に提示できるようになることを期待しています。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ■D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席点および講義の際の提出物、リアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の40%、期末のレポートが60%です。レポートの採点においては、1) 設問に対して、明確に答えているか、2) 自分の意見がきちんと事実、根拠に基づいているか、3) 意見が論理的に展開されているかの三点を基準に採点します。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習としては、適宜参考資料を配布するので読んでから授業に参加すること。また、現実の事件や問題を取り上げますので、必ず新聞の国際面を読むようにしてください(2h) 事後学習としては、授業で扱った理論や用語について復習すること(2h)		
キーワード/Keywords	国際社会、平和、紛争、安全保障、国際人道法		
教科書・教材・参考書/Materials	適宜参考資料を配布する		
受講要件(履修条件)/Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948
備考/Remarks	授業は原則としてすべて対面で行います。
学生へのメッセージ/Message for students	現在の国際社会に関する基礎知識を得たうえで、世界をより平和にするために、現状を批判的にとらえ、自分なりに平和に貢献する方法を模索するような姿勢を持つ学生に成長してくれることを期待しています。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	河合 公明 / 専門は国際人道法。核不拡散条約（NPT）や核兵器禁止条約（TPNW）の会議に非政府組織（NGO）の一員として参加し、核兵器廃絶日本NGO連絡会で事務局を務めた実務経験に基づき、本授業科目に必要な基本的知識を講義により教授する。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：授業の進め方 国際社会とは何か 【対面】
第2回	国際社会の一員としての自分 【対面】
第3回	国際社会へのアプローチ ・「社会科学的」なアプローチ 【対面】
第4回	国際社会の歴史と成り立ち 【対面】
第5回	国際社会と紛争 【対面】
第6回	国際社会と国連 【対面】
第7回	平和のための法 【対面】
第8回	様々な「平和」 【対面】
第9回	「正しい戦争」はあるのか 【対面】
第10回	戦争の被害を軽減する努力 【対面】
第11回	核兵器と国際社会 【対面】
第12回	「国家」の枠を超えて 【対面】
第13回	平和のために何ができるか 【対面】
第14回	現代に生きる私 【対面】
第15回	まとめ 【対面】
第16回	レポート提出

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 1, 月 / Mon 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592000101	科目番号 / Course code	05920001
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●A4情報と社会 / Information in Society		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	丹羽 量久 / NIWA Kazuhisa, 福澤 勝彦 / Fukuzawa Katuhiko, 鈴木 斉 / SUZUKI Hitoshi, 上繁 義史 / Ueshige Yoshifumi		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	丹羽 量久 / NIWA Kazuhisa		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	丹羽 量久 / NIWA Kazuhisa, 福澤 勝彦 / Fukuzawa Katuhiko, 鈴木 斉 / SUZUKI Hitoshi, 上繁 義史 / Ueshige Yoshifumi		
科目分類 / Course Category	教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	ICT基盤センターセミナールーム		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多, 教, 経, 薬, 水		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	k-niwa▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室 / Office	ICT基盤センター 2階		
担当教員TEL / Tel	095-819-2084		
担当教員オフィスアワー / Office hours	月曜日 13:00-14:00 (事前に電子メールで教員と時間調整を行うこと)		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	この授業では、四名の教員がそれぞれの専門分野を取り上げて、実社会における「情報」について以下の四つの観点から講義を行います。 ・情報の価値 ・情報の結合・活用 ・人工知能 ・可視化 ・情報セキュリティとプライバシー 週ごとに授業テーマを設定し、皆さんへの問いかけを提示します。テーマに関連した講義の内容を参考にして、自分の考えをまとめます。受講者同士でコメントし合って、その結果を参考にして、自分の考えをスライドにまとめます。		
授業到達目標 / Course goals	・経済学的視点から理論とその限界について学び、事例をあげて説明できる (, , , , B,C,D) ・情報の結合・活用に関連する技術として、ソーシャルメディアと人工知能に関する技術的背景を理解し、時代の変遷を説明できる (, , , , , , , , C,D) ・「情報」の可視化が情報社会に貢献している事例について説明できる (, , , , , , , , C,D)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☒ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives ☐C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills ☐D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ■E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above 考えに対して「合意/非合意」の両観点で相互評価する取り組み ☐F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	各単元と各授業で課すレポート(10点×7回=70点のうち、42点以上を合格とする)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容 / Preparation & Review	(事前) 授業内容の理解と発表の為に、事前に講義内容の十分な学修と知識の習得を行うこと。(2h) (事後) 相互評価および教員によるフォローを受けて、授業後にも自己評価シートの作成と改善を行う。(2h)		
キーワード / Keywords	情報の価値, ソーシャル・メディア, 情報の可視化, 情報セキュリティとプライバシー		
教科書・教材・参考書 / Materials	適宜関連資料を授業で配布する。		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	授業ではノートPCを利用するので毎回持参すること。（初回授業から持参すること） 全回出席を原則とする。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948
備考/Remarks	授業の実施方法としては、以下の(1)を原則とするが、状況により(2)もしくは(3)とする場合もある。 実施方法に変更がある場合は別途指示する。 (1) 対面授業（教室で直接対面しての授業） (2) リアルタイムのオンライン授業（Webの会議システムを使用した遠隔での授業） (3) オンデマンド授業（用意された動画や(1)(2)の記録を視聴する授業）
学生へのメッセージ/Message for students	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	丹羽 量久/社会基盤構造物の設計・製作に関する線形/非線形構造解析のコンサルテーションおよび技術営業業務、橋梁の自動設計システムのうち変形・応力を計算するソフトウェア群の開発、科学技術やWebに関わるITシステム構築の提案を行う営業業務、既存業務以外の分野における新規事業の開拓・事業化、および関係部署のマネージャーとしての年度計画の立案・数値の管理・統制等の業務。 /コンピュータやインターネットに関わるときに注意すべきことについて、その仕組みや根拠を実務から得た問題点等を加味しながら講義する。また、演習の際は、周りとのコミュニケーションを取りながら、わからないことを解決していく経験を積ませる。/ 上繁 義史/財団法人北九州産業学術推進機構、財団法人九州システム情報技術研究所にて、研究員としてIT関連技術の研究に従事/IT技術関連の研究員としての経験を持つ教員が、コンピュータに関する基本的な原理や情報に関する基礎理論について講義・演習を行う。/ 鈴木 斉/富士通愛知エンジニアリングでの勤務経験/ソフトウェア開発系企業での勤務経験を有する教員が関連する業界の現状等について実態を交えて解説する。/
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回 & 第2回	【ガイダンス】丹羽 この授業の進め方について説明します。 【情報技術から見た現代】鈴木 情報・通信技術の発展を振り返りながら、この変化について取り上げます。
第3回 & 第4回	【情報化に伴う集団の形成、ヒューマン・コミュニケーション】鈴木 情報・通信技術の発展がもたらした人の繋がりについて取り上げます。
第5回 & 第6回	【人工知能と機械学習】鈴木 コンピュータ上で構築される人工知能や機械学習について取り上げます。
第7回 第8回	【社会における情報の価値】(1) 福澤 ・不確実な世界を確率で定義する。 ・価値を決定するための期待値とその意味について考えよう ・情報の価値を定義する 【情報の価値を計算する】(1) 福澤 ・期待値を基礎とした情報の価値の算出 ・期待値は万能か？
第9回	【社会における情報の価値】(2) 福澤 【情報の価値を計算する】(2) 福澤 受講者によるプレゼンテーションを予定しています。
第10回 & 第11回	【情報の表現と可視化】丹羽 ・情報社会に貢献する可視化 ・VR, AR, MR
第12回 & 第13回	【暗号の世界は秘密じゃない】上繁 情報セキュリティ技術として暗号があり、山のような暗号化手法が開発され、国際規格もたくさんあります。この回では暗号技術の考え方を紹介し、応用事例として、ビットコインに代表される仮想通貨などを紹介します。 【認証?私はワタシ】上繁 ID・パスワード認証をはじめ、いろいろな本人認証の技術が知られていますが、この回では特に生体認証を取り上げ、その手法に加えてプライバシーなどの問題をご紹介します。また、生体認証技術を利用した事例を紹介します。

第14回 & 第15回

【利便性・安全性とプライバシー】上繁

ネットサービスにより生活が便利になりました。また、防犯カメラなどを普及させて生活の安全性を高めようとしています。その反面、個人のプライバシーとのバランスが問題になっています。この回では、問題を例示してどう向き合うかを考えます。

【振り返り、まとめ】丹羽

・授業の振り返り

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592000301	科目番号 / Course code	05920003
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● A4情報化の役割と課題 / Roles and Issues of Informatization		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	丹羽 量久 / NIWA Kazuhisa		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	丹羽 量久 / NIWA Kazuhisa		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	丹羽 量久 / NIWA Kazuhisa		
科目分類 / Course Category	教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	ICT基盤センターセミナールーム		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多, 教, 経, 薬, 水		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	k-niwa▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室 / Office	ICT基盤センター 2階		
担当教員TEL / Tel	095-819-2084		
担当教員オフィスアワー / Office hours	火曜日 13:00 ~ 14:00 (事前に電子メールで教員と時間調整を行うこと)		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	この授業では、日々の暮らしで身近に感じるテーマの中から「情報」に関わることを取り上げている。 社会で実際に運用されている情報システムがどのような役割を担っているのか、またどのような課題を持っているのか、について一人一人が個別のトピックについて調べる。得られた成果を整理することにより、社会と情報システムとの関わりを認識し、重要と考えられる事項を抽出して、他者に説明することにより、自身が理解を深める。 全員が学習成果をクラス内でプレゼンテーションする。受講者間で相互評価し、その結果を参考にしてスライド資料とナレーションの改善に取り組む。		
授業到達目標 / Course goals	情報社会における情報システムの役割と仕組みについて理解した上で、あるテーマについて、その課題を整理して、わかりやすく説明できるようになることを目標とし、それに必要な以下のことを修得する。 ・特定のトピックについて深く調べていく手法(, , C, D) ・他者が理解しやすい資料の作成方法と提示方法(, , , D) ・他者と協力して資料を改善し、かつ理解を深めていく方法(, , , , D) ・学習活動と得られた成果をポートフォリオとして構成する方法(, , , C, D)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■ 主体性 / Autonomy ■ 協働性 / Cooperativeness ■ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ■ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above 学生間の相互評価を組み込んでいる ☐ F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	・毎回の授業(予習・復習を含む)における学習の取り組み状況 ・ワークシート、レポート、他者への提示(プレゼンテーション等)、総合レポート(ポートフォリオ)のできれば なお、プレゼンテーション等は受講者間の相互評価を重視する。 ・成績評価については、ワークシートや総合レポート等(5点×12=60点)およびプレゼンテーションの課題(3点×5=15点)の合計75点のうち、45点以上を合格とする。ただし、総合レポートを提出しない場合、他課題の得点に関係なく、不合格となることがあるので注意すること。 なお、総合レポートは、授業終了前にワークシート等の学習成果を取りまとめる集大成の位置づけのため、各学習成果に加筆・修正が行われたものと考えている。したがって、ワークシート等の内容に関する評価については、総合レポート内で代替する。そのため、ワークシート等の内容が提出時から書き換わっていても再提出することを求めない。
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	授業中は主にグループ内での情報共有・議論やプレゼンテーションの相互評価の時間に割り当てているので、事前・事後学習についてはその準備としての調べ学習やスライド作成に充てる。(4H)
キーワード/Keywords	情報社会、情報システム、業務の情報化
教科書・教材・参考書/Materials	必要に応じて、LACSを通じて配布する。 調べ学習に用いる参考図書については、授業で情報探索法を学び、自分で選定する。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	全回出席を原則とし、必ずノートPCを持参すること。 初回授業からLACSを利用する(ノートPCが必要)。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948
備考/Remarks	授業実施方法については、次の(1)を原則とするが、状況により(2)もしくは(3)とする場合もある。実施方法に変更がある場合は別途指示する。 (1) 対面授業(教室で直接対面しての授業) (2) リアルタイムのオンライン授業(Webの会議システムを使用した遠隔での授業) (3) オンデマンド授業(用意された動画や(1)(2)の記録を視聴する授業)
学生へのメッセージ/Message for students	調べ学習の過程で習得する「正しい情報を得る方法」については、在学中の授業や研究にも活用できる技能です。受講者間でプレゼンテーションを相互評価が改善効果に結び付くことに気づくことができます。また、Web会議システムを使って映像・音声を配信する演習を組み込んであり、この経験は急激に普及したオンラインコミュニケーションに役立ちます。
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	丹羽 量久/社会基盤構造物の設計・製作に関する線形/非線形構造解析のコンサルティングおよび技術営業業務、橋梁の自動設計システムのうち変形・応力を計算するソフトウェア群の開発、科学技術やWebに関わるITシステム構築の提案を行う営業業務、既存業務以外の分野における新規事業の開拓・事業化、および関係部署のマネージャーとしての年度計画の立案・数値の管理・統制等の業務。/コンピュータやインターネットに関わるときに注意すべきことについて、その仕組みや根拠を実務から得た問題点等を加味しながら講義する。また、演習の際は、周りとのコミュニケーションを取りながら、わからないことを解決していく経験を積ませる。/
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	【ガイダンス】 ・授業の内容、進め方、評価方法等 【情報化について考える】(1/2) ・情報化概論 ・確認テスト
第2回	【情報化について考える】(2/2) ・情報システムの開発・運用事例 ・初回授業の講義内容を踏まえて考察するレポート
第3回	【学習テーマの決定】 ・学習テーマの決定とグループ編成 ・学習テーマに関係したビデオの視聴 ・各グループにて、一人ずつ個別に担当キーワードの決定
第4回	【参考図書の選定】 ・担当キーワードに関するパスファインダーの作成 ・参考図書の選定

第5回	【情報整理】 ・参考図書を読了し、調査項目の選定(予習) ・調査項目について詳細に整理 ・連想キーワードの列挙 ・Web会議システムによる映像・音声配信の操作練習
第6回	【担当キーワードに関する情報共有と理解の深化】 ・担当キーワードの調査内容をグループ内討論により共有・深化 ・連想キーワードの選択 ・中間発表のメインメッセージの決定
第7回	【中間発表の設計】 ・プレゼンテーションの評価指標 ・プレゼンテーションの主張の明確化、ストーリーの組み立て、スライドの作成 ・スライドへのナレーションの組み込み（授業時間外）
第8回	【中間発表の予行演習】 ・各グループにて、Web会議システムを使ったプレゼンテーションの予行演習 ・プレゼンテーションの改善を目的とした、ループリックによる相互評価
第9回	【中間発表の準備】 ・相互評価結果を参考にして、スライドおよびナレーションを改善 ・中間発表のプレゼンテーションのファイル（PowerPoint形式およびビデオ形式）を投稿
第10回	【中間発表】 ・評価対象グループのプレゼンテーションを自PCにダウンロードして視聴 ・ループリックによるプレゼンテーションの相互評価 ・各プレゼンテーションへのコメントと疑問点を投稿
第11回	【中間発表の振り返り】 ・視聴者からの投稿を整理し、プレゼンテーション改善のヒントとして確認 ・質問への回答
第12回	【連想キーワードの調査】 ・授業で修得したことを活用して、連想キーワードを調査
第13回	【最終発表の準備】 ・中間発表で得られた改善のヒントを参考にして、連想キーワードを加味したプレゼンテーションのスライド作成 ・最終発表のプレゼンテーションのファイル（PowerPoint形式およびビデオ形式）を投稿する。
第14回	【最終発表】 ・評価対象グループのプレゼンテーションを自PCにダウンロードして視聴 ・ループリックによるプレゼンテーションの相互評価
第15回	【総合レポート・まとめ】 ・最終発表の振り返り ・総合レポートとして、学習成果（ワークシート、スライド等）を取りまとめ、学習活動に対する省察を加える ・授業の総括

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 1, 月 / Mon 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586028301	科目番号 / Course code	05860283
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 15151_005		
授業科目名 / Course title	● A5グローバル化時代の社会問題 / Social Problems in the Age of Globalization		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	松村 真樹 / MATSUMURA Masaki		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	松村 真樹 / MATSUMURA Masaki		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	松村 真樹 / MATSUMURA Masaki		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟24 / RoomA-24		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	Ed, Ec, Ph, Fi, SGHSS		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	masaki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Office	Office for Global Relations (one floor above the room B-15)		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	By appointment.		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	This course introduces students to various social issues arising from globalization. Topics include economic disparity and poverty, social inequalities, international migration, racial and ethnic conflicts, global health and the environment. Students will examine global issues in depth through examples.		
授業到達目標/Course goals	At the end of this course, students should be able to: (1) explain global issues using historical and academic perspectives. (2) exchange their opinions about global issues from various viewpoints.		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ■ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☐ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ■ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	Quiz (25%) +Mini report (25%) +Final report (50%) =100%, of which 60% or more will pass this course.		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	Preparation: Watch videos on basic knowledge about the global society. (2h) Review: Summarize contents of in-class discussions in writing. (2h)		
キーワード/Keywords	global division of labor, international migration, refugees, social inequality, ethnicity, gender, child labor, global health, global warming		
教科書・教材・参考書/Materials	handouts, students' notes		
受講要件(履修条件)/Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	In order to ensure equal educational opportunities for all students, Nagasaki University strives to remove societal barriers that may interfere with academic activities, and to provide reasonable accommodations as necessary and appropriate. If you have any questions or concerns regarding reasonable accommodations or other support in this class, please feel free to talk to the instructor (contact information above), or contact the Student Accessibility Office. Student Accessibility Office contact information (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948
備考/Remarks	This course is conducted face-to-face.
学生へのメッセージ/Message for students	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	No
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1 (10/2 8:50)	Course Overview and Requirements (face-to-face)
2 (10/2 10:30)	The Making of Global Society (face-to-face)
3 (10/16 8:50)	Globalization and World Economy (face-to-face)
4 (10/16 10:30)	Inequality and Poverty (face-to-face)
5 (10/23 8:50)	Globalization and Gender-based Disparity (face-to-face)
6 (10/23 10:30)	Globalization and Children (face-to-face)
7 (10/30 8:50)	Historical Transition of International Migration (face-to-face)
8 (10/30 10:30)	Globalization and Refugee Crisis (face-to-face)
9 (11/6 8:50)	Globalization and Ethnicity (face-to-face)
10 (11/6 10:30)	Foreign Workers under Globalization (face-to-face)
11 (11/13 8:50)	Globalization and Environmental Problems (face-to-face)
12 (11/13 10:30)	Globalization and Natural-resource Problems (face-to-face)
13 (11/20 8:50)	Globalization and Infectious Diseases (face-to-face)
14 (11/20 10:30)	A Post-Pandemic World (face-to-face)
15 (11/27 8:50)	Summary and Loose Ends (face-to-face)

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 1, 月 / Mon 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586028301	科目番号 / Course code	05860283
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 15151_005		
授業科目名 / Course title	●A5グローバル化時代の社会問題 / Social Problems in the Age of Globalization		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	松村 真樹 / MATSUMURA Masaki		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	松村 真樹 / MATSUMURA Masaki		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	松村 真樹 / MATSUMURA Masaki		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟24 / RoomA-24		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	教育, 経済, 薬学, 水産, 多文化社会		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	masaki ▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えてください)		
担当教員研究室/Office	グローバル連携機構教員室(B-15教室の真上)		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	アポイントメントを取ってください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	グローバル社会を取り巻く諸課題を理解するために必要な基礎知識の習得を目指す。格差と貧困、社会的な不平等、民族や宗教の違いから生じる摩擦、国際人口移動、健康および環境に関する問題などについて、具体的事例を概観し、その背景を学ぶ。		
授業到達目標/Course goals	1) グローバル化時代の課題について歴史的および学術的観点から説明できるようになる。 2) グローバル化時代の課題について多角的な視点から他者と意見交換できるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ☐ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ■考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	小テスト(25点) + 小レポート(25点) + 最終レポート(50点) = 合計100点のうち60点以上を合格とする。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習: グローバル社会入門の動画ビデオを視聴し、理解した内容をメモする。(2h) 事後学習: 授業中に行ったディスカッションの内容を文章でまとめておく。(2h)		
キーワード/Keywords	国際分業、国際人口移動、難民、格差、不平等、エスニシティ、ジェンダー、児童労働、感染症、地球温暖化		
教科書・教材・参考書/Materials	毎回配布する講義資料と学生自身が筆記するノート		
受講要件(履修条件)/Prerequisites			
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948		
備考/Remarks	対面で実施します。		

学生へのメッセージ/Message for students	受講期間中の担当教員への問い合わせは、LACS「メッセージ」の「松村 真樹（教員）」を使ってください。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1回目 (10/2 8:50)	授業の進め方と課題等について（対面）
2回目 (10/2 10:30)	グローバル社会形成の歴史的背景（対面）
3回目 (10/16 8:50)	経済のグローバル化（対面）
4回目 (10/16 10:30)	グローバル化と格差・貧困（対面）
5回目 (10/23 8:50)	グローバル化とジェンダー（対面）
6回目 (10/23 10:30)	グローバル化と子どもたち（対面）
7回目 (10/30 8:50)	国際人口移動の歴史的推移（対面）
8回目 (10/30 10:30)	グローバル化と難民問題（対面）
9回目 (11/6 8:50)	グローバル化とエスニシティ（対面）
10回目 (11/6 10:30)	グローバル化と外国人労働者（対面）
11回目 (11/13 8:50)	グローバル化と環境問題（対面）
12回目 (11/13 10:30)	グローバル化と資源問題（対面）
13回目 (11/20 8:50)	グローバル化と感染症（対面）
14回目 (11/20 10:30)	パンデミック後の世界（対面）
15回目 (11/27 8:50)	まとめ（対面）

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592000501	科目番号 / Course code	05920005
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● A5人口学で見る世界の多様性 / Discovering Global Diversity through Demography		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	松村 真樹 / MATSUMURA Masaki		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	松村 真樹 / MATSUMURA Masaki		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	松村 真樹 / MATSUMURA Masaki		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟22 / RoomA-22		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	Ed, Ec, Ph, Fi, SGHSS		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	masaki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Office	one floor above Room B15		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	By appointment.		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	Students are expected to deepen their understanding of basic demographic concepts and indicators as well as the determinants and consequences of the current demographic		
授業到達目標/Course goals	At the end of this course, students should be able to: (1) Compute and interpret demographic indicators of birth, death and migration. (2) Explain social, economic and cultural factors influencing population dynamics. (3) Explain the social consequences of the changing demographic structures.		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ■ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	Reports on weekly in-class assignments (10% x7 =70%) +Final exam (30%) =100%, of which 60% or more will pass this course.		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	Preparation: Watch preparation videos. (2h) Review: Write a report on in-class assignments for submission. (2h)		
キーワード/Keywords	demographic transition, declining birthrate, aging, migration, fertility, mortality, dependency ratio		
教科書・教材・参考書/Materials	various web sites on demographic data		
受講要件(履修条件) /Prerequisites			
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	In order to ensure equal educational opportunities for all students, Nagasaki University strives to remove societal barriers that may interfere with academic activities, and to provide reasonable accommodations as necessary and appropriate. If you have any questions or concerns regarding reasonable accommodations or other support in this class, please feel free to talk to the instructor (contact information above), or contact the Student Accessibility Office. Student Accessibility Office contact information (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948		

備考/Remarks	This course is conducted face-to-face.
学生へのメッセージ/Message for students	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	No
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1 (10/3 8:50)	Introduction to the course (face-to-face)
2 (10/3 10:30)	Overview and history of demography (face-to-face)
3 (10/10 8:50)	Global comparisons of demographic structures (face-to-face)
4 (10/10 10:30)	What is demographic transition? (face-to-face)
5 (10/17 8:50)	Indicators and determinants of fertility (face-to-face)
6 (10/17 10:30)	Global comparisons of fertility rates (face-to-face)
7 (10/24 8:50)	Mortality rates and life expectancies (face-to-face)
8 (10/24 10:30)	Epidemiological transition (face-to-face)
9 (10/31 8:50)	Theories of migration (face-to-face)
10 (10/31 10:30)	Circumstances of immigrants and foreign workers (face-to-face)
11 (11/7 8:50)	Indicators of population aging (face-to-face)
12 (11/7 10:30)	Case studies of aging countries (face-to-face)
13 (11/14 8:50)	What is demographic dividend? (face-to-face)
14 (11/14 10:30)	Types and purposes of population policies (face-to-face)
15 (11/21 8:50)	Summary and loose ends (face-to-face)
16 (11/21 10:30)	Final exam (face-to-face)

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592000501	科目番号 / Course code	05920005
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● A5人口学で見る世界の多様性 / Discovering Global Diversity through Demography		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	松村 真樹 / MATSUMURA Masaki		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	松村 真樹 / MATSUMURA Masaki		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	松村 真樹 / MATSUMURA Masaki		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟22 / RoomA-22		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	教育, 経済, 薬学, 水産, 多文化社会		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	masaki ▲ nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えてください)		
担当教員研究室 / Office	グローバル連携機構教員室 (B15教室の真上)		
担当教員TEL / Tel			
担当教員オフィスアワー / Office hours	アポイントメントを取ってください。		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	人口の動向を見ることによって、世界の多様性が見えてくる。同時に、貧困層、児童労働、ジェンダー格差、そして移民・難民の現状など、さまざまな課題にも目が向くようになる。この授業を通じて、人口学的視点から国際社会の変化と多様性について関心をもち、人口データによって現状を説明する方法を身につける。		
授業到達目標 / Course goals	1) 出生、死亡、移動に関する基礎的な人口指標を算出し、その意味を説明することができる。 2) 人口動態に影響を与える要因について、社会・経済・文化的背景に関連付けて説明することができる。 3) 人口構造の変化が社会に及ぼす影響について、事例を挙げて説明することができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ■ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	毎回の課題演習 (10点x7回 = 70点) + 定期試験 (30点) = 合計100点のうち60点以上を合格とする		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容 / Preparation & Review	事前学習: 予習用の動画ビデオを視聴して理解した点や疑問点をメモしておく。(2h) 事後学習: 授業中に行った演習の結果をレポート用にまとめる。(2h)		
キーワード / Keywords	人口転換, 少子高齢化, 国際人口移動, 出生率, 死亡率, 従属人口		
教科書・教材・参考書 / Materials	人口統計などを扱ったウェブサイトを紹介する。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites			
アクセシビリティ / Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948		
備考 / Remarks	対面で実施します。		

学生へのメッセージ/Message for students	受講期間中の担当教員への問い合わせは、LACS「メッセージ」の「松村 真樹（教員）」を使ってください。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1回目 (10/3 8:50)	授業の進め方と課題演習について（対面）
2回目 (10/3 10:30)	人口学の歴史と概要（対面）
3回目 (10/10 8:50)	人口構造の国際比較（対面）
4回目 (10/10 10:30)	人口転換とは何か（対面）
5回目 (10/17 8:50)	合計特殊出生率とは何か（対面）
6回目 (10/17 10:30)	出生状況の国際比較（対面）
7回目 (10/24 8:50)	死亡に関する人口統計とその国際比較（対面）
8回目 (10/24 10:30)	平均寿命伸長の歴史的推移と疫学転換（対面）
9回目 (10/31 8:50)	人口移動の理論（対面）
10回目 (10/31 10:30)	移民・外国人労働者をめぐる現状と課題（対面）
11回目 (11/7 8:50)	人口高齢化に関する統計指標（対面）
12回目 (11/7 10:30)	高齢社会の現状について考える（対面）
13回目 (11/14 8:50)	人口ボーナスとは何か（対面）
14回目 (11/14 10:30)	人口政策の種類と目的（対面）
15回目 (11/21 8:50)	まとめ（対面）
16回目 (11/21 10:30)	定期試験（対面）

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592007101	科目番号 / Course code	05920071
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● A6社会問題を考える / Workshops on Social Problems		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	岡田 佳子 / Okada Yoshiko		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	岡田 佳子 / Okada Yoshiko		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	岡田 佳子 / Okada Yoshiko		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟24 / RoomA-24		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化、教育、経済、薬学、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	okadayo▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	教育学部512		
担当教員TEL/Tel	095-819-2091		
担当教員オフィスアワー/Office hours	何か質問や相談したいことがあったら遠慮なく来てください。 但し、LACS経由ではなく、必ずメールにて面談の予約をしてください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	私達はこの世に生まれてから死ぬまで、必ず誰かとの人間関係の中で生きています。 本科目では、この対人関係の中にみられる諸問題について客観的・分析的に考え、その後自分達で何かしらの解決策を探索していくことを目指します。 そのために本科目ではまず、様々な人間関係の中にある諸問題について、教育学・社会学の観点から客観的・分析的に考えるための視点を養います。次に、それらの視点に基づき、今後実際の諸問題にどのように対応していくのかについてグループワークやディスカッションの中で自分達なりの答えを考え出していくことを目指します。 本科目は大学や社会でのコミュニケーションに必要とされる思考力・分析力・コミュニケーション力など、様々な基礎能力を育成することを目指しています。そのため、この科目では皆さんの積極的な参加が不可欠です。授業内では他者とのコミュニケーションや自分の意見を持つことが強く求められます。この科目ではグループワークや課題の配点を高くしています。そのため、受動的に授業を受けたい人には非常に不向きな授業であるため、その点に留意して受講してください。		
授業到達目標/Course goals	・人間関係が人に及ぼす影響について社会学の用語を用いて説明することができる ・自分が経験してきた人間関係の影響について、客観的に分析できる ・他者との考え方・価値観の違いが生まれる背景や要因について推察することができる ・人間関係に関する諸問題について自分の考えを述べるができる ・他者の多様な価値観について受容的に関わるができる		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ■ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☐ 主体性 / Autonomy ■ 協働性 / Cooperativeness ■ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動
 Activities to practice for acquiring skills ■ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される
 It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業内ワーク及び事前ワーク 30%、授業外課題 70% 全課題の総計を 100 点満点に換算し、60 点以上を合格とします。 但し、(1) 全体の 2/3 以上の出席及び、(2) ワークと課題を全体の 2/3 以上提出していること(3) 最終グループプレゼンテーションに参加していることを「成績評価の最低条件」とします。(この条件を満たしていない学生は自動的に単位が取得できないことになります。また、これらは合格の最低条件ではありません。採点結果によっては不合格になる可能性も十分にありますのでくれぐれも注意してください) 本科目では、最終試験は実施しません。その代わり、授業回数が16回ありますので注意してください。
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	本科目では、毎回、事前に動画を見ていくつかのミニワーク(課題)を提出してもらいます。予習動画を見ていないとグループワークの阻害要因となるため、授業に出席する際は必ず予習動画を見てワークを提出してから臨むこと。
キーワード/Keywords	社会化、ジェンダー、生徒文化、階層、教育格差、文化的再生産
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は指定しません。参考資料等は授業の中で随時配付します。 また、主な参考書は以下の通りです。 ピエール・ブルデュー(1991)『再生産』藤原書店 ピエール・ブルデュー(1990)『ディスタンクシオン』藤原書店 恒吉僚子(1992)『人間形成の日米比較-かくれたカリキュラム』中央公論社(中公新書) 木村涼子(1999)『学校文化とジェンダー』勁草書房 エリザベート・バダンテール(1998)『母性という神話』筑摩書店(ちくま学芸文庫) ポール・ウィリス(1996)『ハマータウンの野郎ども』筑摩書店(ちくま学芸文庫) アンソニー・ギデンズ(1995)『親密性の変容-近代社会におけるセクシュアリティ、愛情、エロティシズム』而立書房 松岡亮二(2019)『教育格差』ちくま新書
受講要件(履修条件)/Prerequisites	・授業内外の課題やグループワークに積極的に取り組むこと。 ・授業進行やグループワークの妨げとなるので特段の理由がない限りは遅刻厳禁です。遅刻した際、グループワークの妨げになる時点での入室を断る場合があります。(その時間の出席は認めません)授業開始時間には必ず着席しておくよう、くれぐれも注意してください。 ・授業中の私語および携帯電話の使用は禁止します。使用を発見した段階で退室してもらう場合があります。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948
備考/Remarks	・この授業では座席指定を行います。座席の指示は授業開始時に行うため、遅刻しないこと。 ・授業内でグループワークを頻繁に行うため、特別の理由がない限りは遅刻厳禁とします。それに留意したうえで受講すること。 対面授業の予定。
学生へのメッセージ/Message for students	この科目では自分の経験や社会的な問題について客観的に捉え直す視点を培い、考える力をつけていくことをねらいとしています。人間関係や社会的な問題について一緒にじっくり考えていきましょう。
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション・学校の人間関係を考える(1)
第2回	学校の人間関係を考える(2)
第3回	学校の人間関係を考える(3)
第4回	学校の人間関係を考える(4)
第5回	教育格差を考える(1)
第6回	教育格差を考える(2)
第7回	教育格差を考える(3)

第8回	教育格差を考える（４）
第9回	ジェンダーについて考える（１）
第10回	ジェンダーについて考える（２）
第11回	ジェンダーについて考える（３）
第12回	ジェンダーについて考える（４）
第13回	人の多様性について考える（１）
第14回	人の多様性について考える（２）
第15回	人の多様性について考える（３）
第16回	人の多様性について考える（４）

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592007301	科目番号 / Course code	05920073
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●A6他者理解の心理学 / Psychology of Understanding Others		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	當山 明華 / Toyama Sayaka		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	當山 明華 / Toyama Sayaka		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	當山 明華 / Toyama Sayaka		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟24 / RoomA-24		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	s-toyama▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	教育開発推進機構アドミッションセンター		
担当教員TEL/Tel	2115		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールにて予約		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	本科目は「他者や社会と関わる」のモジュール科目として、大学や社会でのコミュニケーションに必要とされる基礎能力の育成を目指します。 他者や社会を理解する科目ですが、これらを理解するためにはまず自分を知ることが大切です。そのために、最初に自己の感情や思考についての理解を深め、その後他者や社会について理解を深めていきます。 この科目では、最初に理論を学び、その後理論を用いたワーク、グループ・ディスカッション等を行います。自己と他者の基礎的知識を理解し実践によって定着することで、皆さんの社会生活が豊かになることを目指します。		
授業到達目標/Course goals	(1)自己および他者についての基礎的な知識を得ることができる (2)自分の気持ちや考えを整理することができる (3)自分の気持ちや考えを他者に表現することができる (4)自分の考えと異なる他者の考えを理解できる (5)思わぬ事態が起こった際に客観的に考えようとすることができる (6)社会や環境への意識を高めることができる		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☒ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☐ 主体性 / Autonomy ☒ 協働性 / Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	成績評価は、課題(60%)およびリフレクションペーパー(40%)の評価で行います。リフレクションペーパーは出席も兼ねています。 また、下記の条件を全て満たした方のみを評価対象とします。 ・出席は8回以上 ・最終課題以外の課題提出は5回以上 ・最終課題の提出 (課題については、期限外の提出は認めません)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		

事前、事後学修の内容/Preparation & Review	各回とも、テーマに沿ったワークを行っています。学修を深めるために復習を行い（１h）、それを元にしたレポートの提出を求めます（３h）。
キーワード/Keywords	意思決定，社会的ジレンマ，論理的思考，ディスカッション
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は指定しません。参考資料等は授業のなかで随時配布・提示します。
受講要件（履修条件）/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948
備考/Remarks	全回出席が可能なこと。集中して授業や課題に取り組むこと。自分の言動に責任を持てることを求めます。 教員からの指示がない限り、授業中のPCおよびスマートフォンの使用は不可とします。 対面で実施予定。
学生へのメッセージ/Message for students	この科目では、理論の理解を元に自己および他者との関わりを実践的に行います。そのため、授業外での学修や課題、調査の比重が大きいです。受講を希望する人はその点に留意して参加して下さい。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第１，２回	オリエンテーション，自分自身を知る
第３，４回	自己とは何か
第５，６回	自己と他者（１）ステレオタイプ，対人認知
第７，８回	自己と他者（２）
第９，１０回	自己と社会（１）集団規範，社会的ジレンマ
第１１，１２回	自己と社会（２）
第１３，１４回	自己と環境
第１５回	まとめと振り返り

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592006301	科目番号 / Course code	05920063
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● A7Introduction to Japanese Culture and History / Introduction to Japanese Culture and History		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	山下 龍 / Yamashita Noboru		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	山下 龍 / Yamashita Noboru		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	山下 龍 / Yamashita Noboru		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟12 / RoomA-12		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	授業中の説明は英語のみとなりますので、シラバスも英語のみとなります。自分の英語能力が十分かどうか不安な方は、山下先生に直接メールでご相談ください。 The explanation in class will be given in English only, therefore the syllabus will also only be given in English. If you are not sure if your English language ability is sufficient, please contact prof. Yamashita directly by e-mail.		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	noboru.y.nagasaki-u.ac.jp(→@)		
担当教員研究室/Office	Center for Language Research B-112 gengo-kyo iku-kenkyu-senta 言語教育研究センター		
担当教員TEL/Tel	095-819-2080		
担当教員オフィスアワー/Office hours	Before and after the lecture On appointment		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	This lecture will give an introduction to the most important historical and cultural developments in Japanese history until the end of the Meiji-period.		
授業到達目標/Course goals	This lecture aims at lecturing Japanese students in English on Japanese culture and history. Students will become able to explain the culture and history of their home country in English when they travel abroad, and because of a better or renewed understanding of their cultural heritage they will also obtain the intellectual knowledge necessary to study and discuss foreign cultures. This class is also open to foreign exchange students who will have a chance to study the culture and history of their host country in another language than Japanese.		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ■ 倫理観 / Ethics ■ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☐ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	Homework assignments 20%, presentations (if possible, depending on the number of students) 10%, final test and/or paper 70% (80% if there are too many students to do)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	Homework assignments will be given in the lecture to review the content of that lecture (2h), as well as an assignment to prepare for the next lecture (2h). Both assignments will have to be handed in the next lecture and have to be written in		

キーワード/Keywords	Japanese history, Cultural anthropology, English, History, Culture
教科書・教材・参考書/Materials	Handouts will be given when necessary.
受講要件（履修条件）/Prerequisites	Full attendance is required
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948
備考/Remarks	This class will be conducted face-to-face. Depending on the number of participating students, it may not be possible to do groupwork or to do presentations. Consequently, the content of the lecture schedule is subject to change, but all above named subjects will be discussed.
学生へのメッセージ/Message for students	Study the old, understand the new! 温故知新
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1 (1)	Introduction Prehistoric and Ancient Japan Paleolithic period Jōmon period Yayoi period
2 (1)	Prehistoric and Ancient Japan Yayoi period Kofun period (c. 250–538)
3 (2)	Classical Japan Asuka period (538–710) Nara period (710–794)
4 (2)	Classical Japan Nara period (710–794) Heian period (794–1185)
5 (3)	Classical Japan Heian period (794–1185) Feudal Japan Kamakura period (1185–1333)
6 (3)	Feudal Japan Kamakura period (1185–1333) Muromachi period (1333–1568)
7 (4)	Presentations by students
8 (4)	Feudal Japan Azuchi–Momoyama period (1568–1600) Oda Nobunaga
9 (5)	Feudal Japan Azuchi–Momoyama period (1568–1600) Toyotomi Hideyoshi
10 (5)	Feudal Japan Tokugawa Ieyasu and the Beginning of the Edo period (1600–1868) The Feudal system of the Edo period
11 (6)	Early modern Japan Edo period (1600–1868) Foreign Exchange
12 (6)	Presentations by students
13 (7)	Presentations by students
14 (7)	Early modern Japan Edo period (1600–1868) Religion, Culture The Collapse of the Tokugawa Shogunate
15 (8)	Modern Japan Meiji period (1868–1912) Taishō period (1912–1926)

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592006501	科目番号 / Course code	05920065
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● A7Introduction to International Development / Introduction to International Development		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	青木 恒憲 / aoki tsunenori,		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	青木 恒憲 / aoki tsunenori		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	青木 恒憲 / aoki tsunenori,		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟12 / RoomA-12		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	aoki.tsunenori▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	坂本キャンパス 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 グローバルヘルス総合研究棟5階507号室 Room 507, 5th floor, Global Health Research Building, Graduate School of Tropical Medicine and Global Health, Sakamoto Campus		
担当教員TEL/Tel	095-819-7895 (直通) 095-819-7895 (Direct)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜から金曜まで 10時から16時まで 面談予約や質問はaoki.tsunenori@nagasaki-u.ac.jp宛とし、件名に学部名と氏名を入れて下さい。 10:00 a.m. to 4:00 p.m. Monday through Friday Please make an appointment or send questions to aoki.tsunenori▲nagasaki-u.ac.jp (Replace ▲ with @ when sending e-mail) with the name of the department and your name in the subject line.		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	今日、新型コロナウイルスなどの感染症の脅威、貧困、紛争と人道危機、経済不況、環境汚染は国境を越え、世界には一つの組織、一つ分野、一つの国では対処困難な課題が山積しています。課題解決に向けて他者や他国と協力して取り組むことが求められるこの世界で、より厳しい立場に置かれている開発途上国とその人々―世界の人口80億人の8割を占めています - の暮らしについて考えることは今日の我々にとって極めて重要です。では、開発途上国はどのような課題を抱えているのでしょうか。その原因は何に求められるのでしょうか。国際社会は開発途上国に対して何に、どのように協力をしているのでしょうか。そして、そのような協力はどのような動機に基づくものなのでしょうか。 本科目は国際協力における開発援助の概念、歴史、仕組み、事例に関する基礎的知識を身につけ、開発途上国に対する国際協力についての「自分の考え」を説明出来るようになることを目指します。 Today, the threat of infectious diseases such as the new coronavirus, poverty, conflict and humanitarian crises, economic recession, and environmental pollution transcend national borders, and the world is riddled with challenges that are difficult for one organization, one sector, or one country to solve. In a world where we must work together with others and other countries to solve problems, it is vital for us today to consider the lives of the developing countries and their people, who are in a more difficult position - 80% of the world's population of 8 billion people. What are the challenges facing developing countries? What are the causes? What is the international community doing to help developing countries, and how? And what are the motivations for such cooperation? This course aims to provide students with a basic knowledge of the concept, history, mechanism, and examples of development assistance in international cooperation, and to		

授業到達目標/Course goals	国際協力における開発援助の概念、歴史、仕組み、事例に関する基礎的知識を身につけ、開発途上国に対する国際協力についての「自分の考え」を説明出来るようになる。 This course aims to provide students with a basic knowledge of the concept, history, mechanism, and examples of development assistance in international cooperation, and to enable them to explain "your ideas" about international cooperation with developing
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（１つ以上３つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	□汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	□A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B.多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives □C.技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills □D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F.教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	課題100点 総合点(100点) 60点以上を合格とする。 Assignment: 100 points Total score (100 points): 60 points or more is considered passing.
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	1. 事前: シラバスや講義資料を見て次の授業の流れを把握する。分からない用語や疑問点を調べる。質問等を用意する。(2h) 2. 事後: 講義内容及び講義資料、参考文献等をもとに復習する。疑問点あれば調べ、要すれば教員に確認する。課題がある場合は、取り組み、指定された授業で提出する。開発援助についての自身の考えを順次検討、まとめていく。(2h) 1. Prior to the lesson: Review the syllabus and lecture materials to understand the flow of the next class. Look up unfamiliar terms and questions. Prepare questions, etc. (2h) 2. After the lesson: Review the lecture content, lecture materials, and references. If there are any questions, check them with the instructor. If there are assignments, work on them and submit them in the assigned class. Students will review and summarize their own ideas on development assistance. (2h)
キーワード/Keywords	SDGs、国際協力、開発援助、政府開発援助（ODA）、国連、世界銀行、WHO、UNICEF、JICA、貧困、難民、ジェンダー、教育、保健医療、経済、環境、アジア、アフリカ、中東、欧州、中南米、国際政治、ナショナリズム、多様性、ボランティア、民間連携 SDGs, international cooperation, development assistance, Official Development Assistance (ODA), United Nations, World Bank, WHO, UNICEF, JICA, poverty, refugees, gender, education, health, economy, environment, Asia, Africa, Middle East, Europe, Latin America, international politics, nationalism, diversity, volunteer, private partnership
教科書・教材・参考書/Materials	教科書はありません。授業を通じて参考書籍等を紹介します。 【全般的な参考資料】 開発協力白書 日本の国際協力 外務省ウェブサイトからダウンロード可能 国際協力機構年報 国際協力機構（JICA）ウェブサイトからダウンロード可能 No textbook. Reference books will be introduced in class. General Reference Materials: - White Paper on Development Cooperation Japan's International Cooperation Downloadable from the website of the Ministry of Foreign Affairs of Japan - Annual Report of Japan International Cooperation Agency Downloadable from the JICA website

受講要件（履修条件）/Prerequisites	授業中に発言すること。本科目の授業では受講生に意見や質問を求めます。授業中に意見を述べたり、質問することは自身の考えを磨く、疑問を解決する、他者の考えに耳を傾ける、他の受講生が共に学ぶ貴重な機会です。 Speaking up in class. In this course, students are encouraged to express their opinions and ask questions. Expressing opinions and asking questions in class is a valuable opportunity to refine your own ideas, resolve questions, listen to the ideas of others, and learn together with other students.
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp In order to ensure equal educational opportunities for all students, Nagasaki University strives to remove societal barriers that may interfere with academic activities, and to provide reasonable accommodations as necessary and appropriate. If you have any questions or concerns regarding reasonable accommodations or other support in this class, please feel free to talk to the instructor (contact information above), or contact the Student Accessibility Office.
備考/Remarks	1. 授業の特徴：担当教員の実務経験を活かした理論と実務（実際）に基づく講義です。写真や動画、国際協力の実例の紹介やゲストスピーカーを迎え、生きた授業を行います。 2. 授業の形態：担当教員及びゲストスピーカーによる講義です。対面を基本とし、必要に応じてオンライン（多くても数回程度を想定）を切り替えます。 3. 授業の流れ：冒頭に前回授業の復習、学習の目標の提示、続いて講義（質疑含む）、最後に要点や授業の位置づけの再確認、次回の予告をします。LACSには講義資料を掲示します。 4. 意見や質問：意見や質問を歓迎します。 5. 授業の進行：受講人数、進行具合、ゲストスピーカーの都合により、授業内容の順を変更する可能性があります。 6. 課題：剽窃、不正が認められた場合は該当箇所の評価をゼロとします。 1. Characteristics of the class: The lectures are based on theory and practice (actual practice) utilizing the practical experience of the instructor in charge. The classes are taught in real-life situations through photos, videos, and examples of international cooperation, as well as by guest speakers. 2. Class format: Lectures are given by the instructor and guest speakers. To be delivered face to face, switching to online (assuming a few times at most) if necessary. 3. Class flow: The class begins with a review of the previous class and presentation of learning objectives, followed by the lecture (including Q&A), and ends with a recap of the main points and positioning of the class, as well as a notice for the next class. 4. Comments and questions: Comments and questions are welcome. 5. Class progression: The order of class content is subject to change depending on the number of students, progress, and availability of guest speakers. 6. Assignments: Any plagiarism or malpractice will result in a zero grade.
学生へのメッセージ/Message for students	シラバスの内容に少しでも面白そうだとしたら、ぜひ受講してみてください。皆さんの受講を歓迎します。 Please take the course if you find any part of the syllabus that sounds interesting to you. I welcome your attendance.
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	Tsunenori Aoki (Faculty in Charge) For 20 years, he has been engaged in international cooperation practice at the Japan International Cooperation Agency (JICA), the implementing agency for the Japanese government's international cooperation. He has been in charge of project management in the healthcare sector in Asia and the Pacific, the Middle East and Europe, Africa, and Latin America, global partnerships with the World Bank and the Gates Foundation, etc., and collaboration with private companies and universities. As a health professional, he was stationed in Myanmar from 2003 to 2005 and in Ghana from 2014 to 2017. He visited 25 countries. / He will be teaching this class with his practical experience. Guest Speaker Experienced in international cooperation with his/her practical experience. / Work

授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回(1校時) / 1	授業の紹介 開発途上国の課題 Introduction to the course What are the characteristics of development issues?
第2回(2校時) / 2	開発途上国の課題 What are the characteristics of development issues?
第3回(1校時) / 3	国際協力と開発援助の基本用語 What is poverty, development, and developing country?
第4回(2校時) / 4	国際協力と開発援助の基本用語 What is poverty, development, and developing country? 開発援助のアクター What are aid actors?
第5回(1校時) / 5	日本の政府開発援助の仕組みと実例 What are the policy, administrative, and operational frameworks of Japan's official development assistance?
第6回(2校時) / 6	日本の政府開発援助の仕組みと実例 What are the policy, administrative, and operational frameworks of Japan's official development assistance?
第7回(1校時) / 7	開発援助の歴史 What is the history of international development?
第8回(2校時) / 8	開発援助の歴史 What is the history of international development?
第9回(1校時) / 9	援助する理由 Why giving aid?
第10回(2校時) / 10	国際協力に参加する How can I participate in development cooperation?
第11回(1校時) / 11	ゲストスピーカー Guest speaker
第12回(2校時) / 12	ゲストスピーカー Guest speaker
第13回(1校時) / 13	ゲストスピーカー Guest speaker
第14回(2校時) / 14	ゲストスピーカー Guest speaker
第15回(1校時) / 15	開発援助の今後、総括 Future of development assistance and summary

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592006501	科目番号 / Course code	05920065
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● A7Introduction to International Development / Introduction to International Development		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	青木 恒憲 / aoki tsunenori,		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	青木 恒憲 / aoki tsunenori		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	青木 恒憲 / aoki tsunenori,		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟12 / RoomA-12		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	aoki.tsunenori▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	坂本キャンパス 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 グローバルヘルス総合研究棟5階507号室 Room 507, 5th floor, Global Health Research Building, Graduate School of Tropical Medicine and Global Health, Sakamoto Campus		
担当教員TEL/Tel	095-819-7895 (直通) 095-819-7895 (Direct)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜から金曜まで 10時から16時まで 面談予約や質問はaoki.tsunenori@nagasaki-u.ac.jp宛とし、件名に学部名と氏名を入れて下さい。 10:00 a.m. to 4:00 p.m. Monday through Friday Please make an appointment or send questions to aoki.tsunenori▲nagasaki-u.ac.jp (Replace ▲ with @ when sending e-mail) with the name of the department and your name in the subject line.		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	今日、新型コロナウイルスなどの感染症の脅威、貧困、紛争と人道危機、経済不況、環境汚染は国境を越え、世界には一つの組織、一つ分野、一つの国では対処困難な課題が山積しています。課題解決に向けて他者や他国と協力して取り組むことが求められるこの世界で、より厳しい立場に置かれている開発途上国とその人々―世界の人口80億人の8割を占めています - の暮らしについて考えることは今日の我々にとって極めて重要です。では、開発途上国はどのような課題を抱えているのでしょうか。その原因は何に求められるのでしょうか。国際社会は開発途上国に対して何に、どのように協力をしているのでしょうか。そして、そのような協力はどのような動機に基づくものなのでしょうか。 本科目は国際協力における開発援助の概念、歴史、仕組み、事例に関する基礎的知識を身につけ、開発途上国に対する国際協力についての「自分の考え」を説明出来るようになることを目指します。 Today, the threat of infectious diseases such as the new coronavirus, poverty, conflict and humanitarian crises, economic recession, and environmental pollution transcend national borders, and the world is riddled with challenges that are difficult for one organization, one sector, or one country to solve. In a world where we must work together with others and other countries to solve problems, it is vital for us today to consider the lives of the developing countries and their people, who are in a more difficult position - 80% of the world's population of 8 billion people. What are the challenges facing developing countries? What are the causes? What is the international community doing to help developing countries, and how? And what are the motivations for such cooperation? This course aims to provide students with a basic knowledge of the concept, history, mechanism, and examples of development assistance in international cooperation, and to		

授業到達目標/Course goals	国際協力における開発援助の概念、歴史、仕組み、事例に関する基礎的知識を身につけ、開発途上国に対する国際協力についての「自分の考え」を説明出来るようになる。 This course aims to provide students with a basic knowledge of the concept, history, mechanism, and examples of development assistance in international cooperation, and to enable them to explain "your ideas" about international cooperation with developing
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（１つ以上３つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	□汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	□A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B.多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives □C.技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills □D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F.教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	課題100点 総合点(100点) 60点以上を合格とする。 Assignment:100 points Total score (100 points): 60 points or more is considered passing.
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	1. 事前:シラバスや講義資料を見て次の授業の流れを把握する。分からない用語や疑問点を調べる。質問等を用意する。(2h) 2. 事後: 講義内容及び講義資料、参考文献等をもとに復習する。疑問点あれば調べ、要すれば教員に確認する。課題がある場合は、取り組み、指定された授業で提出する。開発援助についての自身の考えを順次検討、まとめていく。(2h) 1. Prior to the lesson: Review the syllabus and lecture materials to understand the flow of the next class. Look up unfamiliar terms and questions. Prepare questions, etc. (2h) 2. After the lesson: Review the lecture content, lecture materials, and references. If there are any questions, check them with the instructor. If there are assignments, work on them and submit them in the assigned class. Students will review and summarize their own ideas on development assistance. (2h)
キーワード/Keywords	SDGs、国際協力、開発援助、政府開発援助（ODA）、国連、世界銀行、WHO、UNICEF、JICA、貧困、難民、ジェンダー、教育、保健医療、経済、環境、アジア、アフリカ、中東、欧州、中南米、国際政治、ナショナリズム、多様性、ボランティア、民間連携 SDGs, international cooperation, development assistance, Official Development Assistance (ODA), United Nations, World Bank, WHO, UNICEF, JICA, poverty, refugees, gender, education, health, economy, environment, Asia, Africa, Middle East, Europe, Latin America, international politics, nationalism, diversity, volunteer, private partnership
教科書・教材・参考書/Materials	教科書はありません。授業を通じて参考書籍等を紹介しします。 【全般的な参考資料】 開発協力白書 日本の国際協力 外務省ウェブサイトからダウンロード可能 国際協力機構年報 国際協力機構（JICA）ウェブサイトからダウンロード可能 No textbook. Reference books will be introduced in class. General Reference Materials: - White Paper on Development Cooperation Japan's International Cooperation Downloadable from the website of the Ministry of Foreign Affairs of Japan - Annual Report of Japan International Cooperation Agency Downloadable from the JICA website

受講要件（履修条件）/Prerequisites	授業中に発言すること。本科目の授業では受講生に意見や質問を求めます。授業中に意見を述べたり、質問することは自身の考えを磨く、疑問を解決する、他者の考えに耳を傾ける、他の受講生と共に学ぶ貴重な機会です。 Speaking up in class. In this course, students are encouraged to express their opinions and ask questions. Expressing opinions and asking questions in class is a valuable opportunity to refine your own ideas, resolve questions, listen to the ideas of others, and learn together with other students.
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp In order to ensure equal educational opportunities for all students, Nagasaki University strives to remove societal barriers that may interfere with academic activities, and to provide reasonable accommodations as necessary and appropriate. If you have any questions or concerns regarding reasonable accommodations or other support in this class, please feel free to talk to the instructor (contact information above), or contact the Student Accessibility Office.
備考/Remarks	1. 授業の特徴：担当教員の実務経験を活かした理論と実務（実際）に基づく講義です。写真や動画、国際協力の実例の紹介やゲストスピーカーを迎え、生きた授業を行います。 2. 授業の形態：担当教員及びゲストスピーカーによる講義です。対面を基本とし、必要に応じてオンライン（多くても数回程度を想定）を切り替えます。 3. 授業の流れ：冒頭に前回授業の復習、学習の目標の提示、続いて講義（質疑含む）、最後に要点や授業の位置づけの再確認、次回の予告をします。LACSには講義資料を掲示します。 4. 意見や質問：意見や質問を歓迎します。 5. 授業の進行：受講人数、進行具合、ゲストスピーカーの都合により、授業内容の順を変更する可能性があります。 6. 課題：剽窃、不正が認められた場合は該当箇所の評価をゼロとします。 1. Characteristics of the class: The lectures are based on theory and practice (actual practice) utilizing the practical experience of the instructor in charge. The classes are taught in real-life situations through photos, videos, and examples of international cooperation, as well as by guest speakers. 2. Class format: Lectures are given by the instructor and guest speakers. To be delivered face to face, switching to online (assuming a few times at most) if necessary. 3. Class flow: The class begins with a review of the previous class and presentation of learning objectives, followed by the lecture (including Q&A), and ends with a recap of the main points and positioning of the class, as well as a notice for the next class. 4. Comments and questions: Comments and questions are welcome. 5. Class progression: The order of class content is subject to change depending on the number of students, progress, and availability of guest speakers. 6. Assignments: Any plagiarism or malpractice will result in a zero grade.
学生へのメッセージ/Message for students	シラバスの内容に少しでも面白そうだとしたら、ぜひ受講してみてください。皆さんの受講を歓迎します。 Please take the course if you find any part of the syllabus that sounds interesting to you. I welcome your attendance.
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y

実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	青木恒憲 (担当教員) 20年に亘り日本政府の国際協力の実施機関である独立行政法人国際協力機構 (JICA) で国際協力の実務に従事。アジア・大洋州、中東・欧州、アフリカ、中南米の保健医療分野のプロジェクトマネジメント、世界銀行やゲイツ財団等とのグローバルパートナーシップ、民間企業や大学との連携を担当。保健医療専門家として2003年から2005年までミャンマー、2014年から2017年までガーナに駐在。25カ国に滞在。 / 実務経験の紹介を交えながら本授業を担当する。 ゲストスピーカー 国際協力の実務経験者 / 実務経験の紹介を行う。 Tsunenori Aoki (Faculty in Charge) For 20 years, he has been engaged in international cooperation practice at the Japan International Cooperation Agency (JICA), the implementing agency for the Japanese government's international cooperation. He has been in charge of project management in the healthcare sector in Asia and the Pacific, the Middle East and Europe, Africa, and Latin America, global partnerships with the World Bank and the Gates Foundation, etc., and collaboration with private companies and universities. As a health professional, he was stationed in Myanmar from 2003 to 2005 and in Ghana from 2014 to 2017. He visited 25 countries. / He will be teaching this class with his practical experience. Guest Speaker Experienced in international cooperation with his/her practical experience. / Work
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回(1校時) / 1	授業の紹介 開発途上国の課題 Introduction to the course What are the characteristics of development issues?
第2回(2校時) / 2	開発途上国の課題 What are the characteristics of development issues?
第3回(1校時) / 3	国際協力と開発援助の基本用語 What is poverty, development, and developing country?
第4回(2校時) / 4	国際協力と開発援助の基本用語 What is poverty, development, and developing country? 開発援助のアクター What are aid actors?
第5回(1校時) / 5	日本の政府開発援助の仕組みと実例 What are the policy, administrative, and operational frameworks of Japan's official development assistance?
第6回(2校時) / 6	日本の政府開発援助の仕組みと実例 What are the policy, administrative, and operational frameworks of Japan's official development assistance?
第7回(1校時) / 7	開発援助の歴史 What is the history of international development?
第8回(2校時) / 8	開発援助の歴史 What is the history of international development?
第9回(1校時) / 9	援助する理由 Why giving aid?
第10回(2校時) / 10	国際協力に参加する How can I participate in development cooperation?
第11回(1校時) / 11	ゲストスピーカー Guest speaker
第12回(2校時) / 12	ゲストスピーカー Guest speaker
第13回(1校時) / 13	ゲストスピーカー Guest speaker
第14回(2校時) / 14	ゲストスピーカー Guest speaker
第15回(1校時) / 15	開発援助の今後、総括 Future of development assistance and summary

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592000701	科目番号 / Course code	05920007
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●A8BSE問題を振り返る / Reconsideration of BSE problems		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	小林 篤史		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	小林 篤史		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	小林 篤史		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟14 / RoomA-14		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kobayashi ▲ nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	医歯薬学総合研究科 バイオメディカルモデル動物研究センター1階 センター長室		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	事前にメールにてアポイントを取ること		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	狂牛病(BSE)の問題とは何であったかを学び、食の安全と感染症の関係を考える。		
授業到達目標/Course goals	ウイルスやプリオンについて理解し、感染症対策に関して、論理的思考ができる。不確かなことに関する情報を収集し、疑問点を明らかにし、自分なりの見解を表現できる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ■E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above まとめ ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	プレゼンテーション課題(30点) + レポート課題(50点) + 授業への取り組み(20点) = 合計100点のうち60点以上を合格とする。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	参考文献やインターネット検索により、授業で扱う内容について事前に学んでおくといでしょう。グループワークのためには、事前に情報を収集する必要があり、授業後には授業中に出了疑問点や課題について調べる必要があります。発表会でのプレゼンにむけて授業時間外にも準備をおこなう必要があります。レポートの作成のために授業後に授業全体を振り返り、学んだ内容を復習する必要があります。 各授業回の予習、復習は各2時間程度必要となります。		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	特になし(必要に応じてLACSに参考資料を提供する)。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites	特になし(必要に応じてLACSに参考資料を提供する)。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp	
備考/Remarks	この授業は対面で実施します。状況によって変更する場合がありますので、その場合はLACSで連絡します。	
学生へのメッセージ/Message for students	理系文系問わず、感染症や健康、医療に関して、自らデータを入手し、分析し、考える力を養います。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N	
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course		
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 /
1回目	イントロダクション	A
2回目	プリオンとプリオン病	A
3回目	グループワーク（１）自己紹介とテーマに関する疑問について	B
4回目	グループワーク（２）テーマに関する疑問についての討論とサブテーマの設定	B
5回目	グループワーク（３）学習成果の共有	B
6回目	グループワーク（４）さらなる疑問点についてのまとめ 学習課題の抽出	B
7回目	グループワーク（５）グループプレゼンの準備	B
8回目	グループワーク（６）グループプレゼンの準備	B
9回目	発表会（１）	A
10回目	発表会（２）	A
11回目	発表会（３）	A
12回目	発表会（４）	A
13回目	発表会（５）	A
14回目	発表会（６）	A
15回目	まとめと全体討論 授業の振り返り	B

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592007901	科目番号 / Course code	05920079
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● A8新型コロナパンデミックと子宮頸癌ワクチンを考える / Thinking about New Coronavirus Pandemic and Papilloma Virus Vaccine		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	久保 嘉直 / Kubo Yoshinao		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	久保 嘉直 / Kubo Yoshinao		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	久保 嘉直 / Kubo Yoshinao		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟14 / RoomA-14		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化・教育・経済・薬学・水産学部の1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	yoshinao▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	熱帯医学研究所臨床感染症学分野		
担当教員TEL/Tel	095-819-7842		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月～金曜日 10:00-17:00 (メールで要予約)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	ワクチンに関する過去、現在の問題を考える		
授業到達目標/Course goals	テレビやネットの情報を鵜呑みにするのではなく、元々の実験データを観察し、正確に判断できるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	□A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over □B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ■D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	定期試験(80点)+授業への参加・貢献度(20点)=合計100点のうち60点以上を合格とする。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	・予習 前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) ・復習 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード/Keywords	感染症、ワクチン、免疫		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書はなし。パワーポイントの資料を配布する。		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	高校生物を理解していることが望ましい		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948		
備考/Remarks	この授業は対面で実施します。		
学生へのメッセージ/Message for students			

実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	免疫基礎
第2回	免疫基礎
第3回	免疫基礎
第4回	感染症
第5回	感染症
第6回	感染症
第7回	ワクチン
第8回	ワクチン
第9回	ワクチン
第10回	ワクチン副作用
第11回	ワクチン副作用
第12回	ワクチン副作用
第13回	論文購読
第14回	論文購読
第15回	論文購読
第16回	定期試験

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592001101	科目番号 / Course code	05920011
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●A9老いと健康 / Aging and Health		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	井口 茂 / Inokuti Shigeru, 横尾 誠一 / Seiichi Yokoo, 森内 剛史		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	井口 茂 / Inokuti Shigeru		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	井口 茂 / Inokuti Shigeru, 横尾 誠一 / Seiichi Yokoo, 森内 剛史		
科目分類 / Course Category	教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟33 / RoomA-33		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	shigeru▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	保健学科3階 井口教員室		
担当教員TEL/Tel	井口 茂 095-819-7962 森内剛史 095-819-7996		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日 18:00~19:30		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	高齢者の加齢に伴う身体・心理的变化、環境への適応能力など生理的及び社会的変化を学び、社会的変化を高齢化が進む長崎の取り組みを織り交ぜながら学び、高齢者に対するケアのあり方について議論していく。長崎県の状況と将来像や様々な対応・対策を学修することで高齢者問題を学生自らの問題として理解していく。		
授業到達目標/Course goals	・高齢者の心身の変化を理解し、説明することができる。() ・高齢者の社会的背景を理解し、説明することができる。(、 、 B) ・高齢者に対するケアの現状を理解できるようになる。(、 、 C) ・高齢者とコミュニケーションを取ることができる。(、 、 D) ・長崎県の高齢者問題を整理し、フィールドワークに基づく課題についてプレゼンテーションすることができる。(、 、 A)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☒ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☒ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☒ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	フィールドワークがある場合：グループワーク・課題発表(4回×10点=40点) + フィールドワーク レポート(40点)、フィールドワークへの取り組み(10点) + 授業への取り組み(10点) = 100点の うち60点以上を合格とする。 フィールドワークがない場合：グループワークへの取り組み(30点) + 課題レポート(60点) + 授 業への取り組み(10点) = 100点のうち60点以上を合格とする。 なお、成績評価は、AA・A・B・C・Dの評語をもって表し、AA(90点以上)・A(89点~80点)・ B(79点~70点)・C(69点~60点)が合格(単位認定)、D(59点以下)が不合格とする。各講義担 当者によるグループワークの貢献度、小レポートを鑑み評価担当者の井口が最終的に判断する。 成績に疑義が生じた場合は、学生の手引きに記載している正規の手続きをもって申し立てをす ることができる。詳細な成績を知りたい場合は、オフィスアワー等を利用し、個別に対応する。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		

事前、事後学修の内容/Preparation & Review	予習：各講義の資料をweb上に掲載するので、あらかじめ目を通して講義の内容及び流れを把握しておくこと。（2h） 復習：講義のノート及びweb上の資料により復習し、疑問点などをまとめること。（2h）	
キーワード/Keywords	高齢者、健康、ケア、介護保険、住民活動、長崎県	
教科書・教材・参考書/Materials	教科書・教材・参考書：特になし・必要に応じて資料を配付する	
受講要件（履修条件）/Prerequisites	復習時間として週4時間以上を要する	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948	
備考/Remarks	対面で実施予定。（第5・6回はリアルタイムオンラインで実施）	
学生へのメッセージ/Message for students	高齢者の問題・課題は、介護問題だけでなく社会に関わる多くの要因が絡んでいます。自分が目指す分野における関係性についても考えてください。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y	
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	井口 茂/10年以上高齢者の理学療法及び認知症の地域包括のケアを行っている/現代社会の問題である高齢者社会の取り組みと高齢者の特徴を明らかにし、作業療法学・理学療法学・看護学の視点から問題点を指導する。/	
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 /
1回：10/3 1限目	高齢者が抱える健康及び生活課題（担当：井口） 対面で実施予定	A
2回：10/3 2限目	知っておこう！介護保険制度（担当：井口） 対面で実施予定	A
3回：10/10 1限目	認知症とは（担当：森内） 対面で実施予定	A
4回：10/10 2限目	認知症を予防する（担当：森内） 対面で実施予定	C
5回：10/17 1限目	高齢者と家族（老老介護）（担当：横尾） オンラインにて実施	A
6回：10/17 2限目	高齢者を介護するということ（地域支援）（担当：横尾） オンラインにて実施	A
7回：10/24 1限目	介護予防の取り組み：介護に至る原因（担当：井口） 対面で実施予定	A
8回：10/24 2限目	介護予防の取り組み：自助・互助の取り組み（担当：井口） 対面で実施予定	A
9回：10/31 1限目	認知症のリハビリテーション1（担当：森内） 対面で実施予定	C
10回：10/31 2限目	認知症のリハビリテーション2（担当：森内） 対面で実施予定	C
11回：11/7 1限目	高齢者体験 1（担当：森内） 対面で実施予定	C
12回：11/7 2限目	高齢者体験 2（担当：森内） 対面で実施予定	C
13回：11/14 1限目	地域包括ケアシステムについて（担当：井口） 対面で実施予定	C
14回：11/14 2限目	介護予防に関する事例検討（担当：井口） 対面で実施予定	C
15回：11/21 1限目	グループワーク・ディスカッション（担当：井口） 対面で実施予定	B

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592001301	科目番号 / Course code	05920013
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●A9障害体験と支援 / Disability Experience and Support		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	東 登志夫 / Higashi Toshio, 中尾 理恵子 / Nakao Rieko, 柳澤 沙也子, 西 祐樹		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	東 登志夫 / Higashi Toshio		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	東 登志夫 / Higashi Toshio, 中尾 理恵子 / Nakao Rieko, 柳澤 沙也子, 西 祐樹		
科目分類 / Course Category	教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟33 / RoomA-33		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	higashi-t ▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	保健学科5階		
担当教員TEL/Tel	095-849-7994		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜日 18:00-19:00 それ以外の時間を希望する場合はメールにて問い合わせてください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	各種障害の疑似体験等を通して障害を理解し、その支援の必要性を体感するとともに、具体的な最新の支援方法(作業療法, 理学療法, 保健)について学ぶ。		
授業到達目標/Course goals	・代表的な障害を挙げることができる ・障害を持った方が抱えている生活障害を理解する ・障害者を支援する各種制度の概要を理解する ・各種障害を支援する専門職の役割について学ぶ		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☒ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☒ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	プレゼンテーションでの発表内容(20%), 各体験終了後のレポート(80%)にて総合的に評価。 <評価担当者> 東 登志夫 <合格基準> 長崎大学成績評価ガイドラインにそって評価し, AA(90点以上), A(89~80点), B(79~70点), C(69~60点), D(59点以下)とし, Dは不合格とする。 <成績発表の方法> 学期ごとに準備が整い次第, 掲示板等で連絡し, 学務情報システム「NU-Web」より各自で確認できる。 <疑義に関して> 成績の詳細な内容を知りたい場合は, オフィスアワー等を利用して個別に対応する。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		

事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習：各回のテーマについて，Web,文献などで調べておくこと（2時間） 事後学習：各回の授業内容や体験内容，討議内容等の概要を自分なりに整理し理解を深めること（2時間）
キーワード/Keywords	障害，高齢者，支援，作業療法，理学療法，斜面
教科書・教材・参考書/Materials	配付資料
受講要件（履修条件）/Prerequisites	特になし
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では，全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため，修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては，担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は対面形式での実施を原則といたしますが，新型コロナウイルス感染症の感染流行状況や，その他悪天候など対面形式での実施が困難な状況と判断した場合には，ZOOMによるオンライン形式で実施する場合もありますので予めご了承ください。授業の実施形式が変更する場合はLACSにて連絡いたします。
学生へのメッセージ/Message for students	本講義では，高齢者，視覚障害，片麻痺及び体車椅子の体験等を実際に体験し，障害を持つ方々への支援のあり方を一緒に考えます。興味がある方，是非受講してください。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	中尾 理恵子 / 長崎市での行政保健師勤務経験 / 公衆衛生行政に関する解説と地域の実状に合わせた取り組みを教授する / 東登志夫（科目責任者） / 身体障害者福祉施設，介護保険関連施設，医療機関での作業療法の経験を元に教授する。実習指導者 / 臨床実習指導者講習会の受講経験を持つ，実習先の作業療法士が現場経験を元に教授する。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション，グループ分け（東） ＜対面＞
第2回	各種障害の理解（東） ＜対面＞
第3回	障害体験（車いす）（東） ＜対面＞
第4回	障害体験（車いす） グループ討議（東） ＜対面＞
第5回	障害体験（片麻痺，視覚障害）（東） ＜対面＞
第6回	障害体験（片麻痺，視覚障害） グループ討議（東） ＜対面＞
第7回	視覚障害者への支援（中尾） ＜対面＞
第8回	摂食・嚥下障害への支援（中尾） ＜対面＞
第9回	海外における障害者支援（柳澤） ＜対面＞
第10回	海外における障害者支援（柳澤） ＜対面＞
第11回	理学療法士による支援（西）＜対面＞
第12回	理学療法士による支援（西）＜対面＞
第13回	障害者支援の考え方（東） ＜対面＞
第14回	障害者支援の考え方（東） ＜対面＞
第15回	まとめ ＜対面＞

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586025101	科目番号 / Course code	05860251
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 11931_005		
授業科目名 / Course title	●A10ビギナーのための生物学 / Biology for Beginners		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	岩田 修永 / Iwata Nobuhisa, 城谷 圭朗 / Shirodani Keiro, 武田 弘資 / TAKEDA Kosuke, 谷村 進 / Tanimura Susumu		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	岩田 修永 / Iwata Nobuhisa		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	岩田 修永 / Iwata Nobuhisa, 城谷 圭朗 / Shirodani Keiro, 武田 弘資 / TAKEDA Kosuke, 谷村 進 / Tanimura Susumu		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育C棟25 / RoomC-25		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	岩田修永: iwata-n▲nagasaki-u.ac.jp 城谷圭朗: keiroshiro▲nagasaki-u.ac.jp 武田弘資: takeda-k▲nagasaki-u.ac.jp 谷村 進: tani1211▲nagasaki-u.ac.jp 竹生田 淳: j-tkd▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	薬学部・ゲノム創薬学(岩田、城谷)、薬学部・細胞制御学(武田、谷村、竹生田)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2435 (岩田), 095-819-2436 (城谷), 095-819-2417 (武田), 095-819-2419 (谷村), 095-819-2418 (竹生田)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月～金曜日 13時-17時(メールで要予約)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	細胞やその構成成分、細胞の機能と恒常性の維持、DNAや遺伝子の働き、酵素の働きなど、生物学の基礎やがんなどの病態メカニズムを学ぶ。さらに、遺伝子組換え技術をもとに開発された最先端医薬品(バイオ医薬品を含む)を例示し、現代社会における課題を抽出してその問題を解決するための演習を行い、自ら学び、考え、主張し行動改革できる能力を養う。与えられた課題に対して小グループで議論し、資料を作成して発表する。		
授業到達目標/Course goals	・ 遺伝子・酵素・細胞の機能を理解するための生物学の基礎を学び、具体的な働きについて説明できるようになる。 ・ 遺伝子と病気の関係について説明できるようになる。 ・ 遺伝子組換え技術やバイオ医薬品、組換え食品の知識を活用できるようになる。 ・ 適切な自己表現能力を身につけ、プレゼンテーションができるようになる。 ・ 教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連目標の達成をめざす(全学モジュール共通目標) 以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける(全学モジュール共通目標) 全学共通DP(社会に貢献できる市民として求められる多様な基礎的知識)に対応。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☒ 協働性 / Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	定期試験および内容理解確認小テスト（50点）+ 授業中の課題に対する積極的な取り組み状況（プレゼン資料作成への取り組み、グループプレゼンテーション時の発表や質問の内容等）（50点）合計100点のうち60点以上を合格とする。 問題を正しく理解し、答えているか。必要なキーワードを用いているか。思考方法が正しいかで評価する。生物学の基礎の理解が基準となる。 講義形式がオンラインになった場合、評価方法は別途定める。	
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照	
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習（2h）： LACSにアクセスし、講義資料や参考書等に目を通すこと。 事後学習（2h）： 講義で理解できなかった箇所は、配布プリントや教科書、参考書を使って明らかにするとともに、教員に質問し早めに解決すること。	
キーワード/Keywords	遺伝子・酵素・細胞の機能、発がんのメカニズム、創薬研究、遺伝子組換え、遺伝子治療、バイオ医薬品	
教科書・教材・参考書/Materials	教材：プリントを配布するか、LACSにアップロードする 参考書・参考図書：はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学(羊土社)など	
受講要件（履修条件）/Prerequisites	15回のうち6回以上の欠席は失格とする。	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948	
備考/Remarks	授業は対面形式で実施します。最初の回に授業計画を説明しますが、状況によって変更する場合もあります。 台風等不測の事態により全学的休講措置が取られた際は、土曜日に補講を行うことがあります。	
学生へのメッセージ/Message for students	本科目では、どのような薬を飲めば病気が治るのか、どのように使われるのか、といった実用上の知識を得ることを目標にしているではありません。薬が生体にどのように作用し、病気を治癒することができるのかを正しく理解するためには、生体のしくみや病気の原因などの基本的な知識が必要です。このモジュールでは、これらの知識をわかりやすく、そして正しく理解できるように工夫します。	
実務経験のある教員による授業科目であるか（Y/N）/Instructor(s) with practical experience	Y	
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	岩田 修永/博士研究員として国立研究開発法人理化学研究所、厚労省国立医薬品食品衛生研究所および米国立衛生研究所にて生化学・分子生物学分野の基礎研究を行なう実務経験/実務経験に基づいて細胞やその構成成分、細胞の機能と恒常性の維持、DNAや遺伝子の働き、酵素の働きなど、生物学の基礎やがんなどの病態メカニズムに関する講義を行う。/ 城谷 圭朗/博士研究員として国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、ミュンヘン大学にて、教員と大学法人長崎大学、福島県立医科大学、北海道大学にて生化学・分子生物学分野の基礎研究を行なう実務経験/実務経験に基づいて細胞やその構成成分、細胞の機能と恒常性の維持、DNAや遺伝子の働き、酵素の働きなど、生物学の基礎やがんなどの病態メカニズムに関する講義を行う。/	
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 /
第1回, 10/3, 1校時	DNAや遺伝子の働き（対面）[岩田]	A
第2回, 10/3, 2校時	課題提示 とグループ内での意見交換とプレゼンテーションの準備（対面）[岩田、城谷]	B
第3回, 10/10, 1校時	遺伝子組換え技術と創薬への応用（対面）[城谷]	A
第4回, 10/10, 2校時	グループ内でプレゼンテーションと意見交換（対面）[岩田、城谷]	B
第5回, 10/17, 1校時	タンパク質の構造と多彩な機能（1）（対面）[武田]	A
第6回, 10/17, 2校時	グループ間プレゼンテーション, 全体討論（対面）[岩田、城谷]	B
第7回, 10/24 1校時	タンパク質の構造と多彩な機能（2）（対面）[武田]	A
第8回, 10/24, 2校時	課題提示 とグループ内での意見交換とプレゼンテーションの準備（対面）[武田・谷村]	B
第9回, 10/31, 1校時	細胞の増殖と生死の制御機構（対面）[谷村]	A
第10回, 10/31, 2校時	グループ間プレゼンテーション, 全体討論（対面）[武田・谷村]	B
第11回, 11/7, 1校時	発がんのメカニズムと抗がん剤（対面）[谷村]	A
第12回, 11/7, 2校時	課題提示 とグループ内での意見交換とプレゼンテーションの準備（対面）[武田・谷村]	B
第13回, 11/14, 1校時	グループ間プレゼンテーション, 全体討論（対面）[武田・谷村]	B

第14回，11/14，2校時	課題提示Ⅳとグループ内での意見交換とプレゼンテーションの準備（対面）[武田・谷村]	B
第15回，11/21，1校時	グループ間プレゼンテーション，全体討論（対面）[武田・谷村]	B
第16回，11/21，1校時	定期試験（対面）	A

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586004101	科目番号 / Course code	05860041
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 11911_005		
授業科目名 / Course title	●A10ビギナーのための有機化学 / Organic Chemistry for Beginners		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	田中 正一 / Tanaka Masakazu, 真木 俊英 / Maki Toshihide, 上田 篤志 / Ueda Atsushi		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	田中 正一 / Tanaka Masakazu		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	田中 正一 / Tanaka Masakazu, 真木 俊英 / Maki Toshihide, 上田 篤志 / Ueda Atsushi		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育C棟25 / RoomC-25		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	matanaka▲nagasaki-u.ac.jp (代表) (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	薬学部薬化学研究室3F(田中、上田)、薬学部5F(真木)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2423(田中), 2465(真木), 2425(上田)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	毎週火曜日: 12:00-12:40(田中、真木、上田)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	生命現象は有機化学反応が織りなすものであり、また、有機化合物はヒトの生活に欠かせない物質(薬、プラスチックなど)である。本講義では、有機化学的な観点から生物の営みや自然現象を理解できるための基礎的知識を習得する。		
授業到達目標/Course goals	1. 有機化合物と無機物質を区別できる。 2. 有機化学的な観点から、生物の営みや自然現象を簡単に説明できる。 3. 有機化学の基本的原理と実際の薬などへの応用例を挙げることが出来る。 4. 新聞・TV等での有機化学に関する話題を正しく理解し、説明できる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☒ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業への貢献度・演習(40%)と試験(60%, 中間試験、レポート・LACSを併用する)から総合的に判断して成績評価を行う。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習: 教科書により予習を行う(2時間/1回あたり)。 事後学習: 教科書、LACS(あるいはプリント)、により復習を行うこと(2時間/1回あたり)。		
キーワード/Keywords	元素・炭化水素・官能基・触媒		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書: 米山正信/安藤 宏 著、「有機化学が好きになる(新装版)」, 講談社Blue Backs.		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	原則として全回出席を単位認定の要件とする。ただし、3回以上欠席した場合は、理由書を提出してもらい課題等を課すこともある。 教科書を必ず持参して受講すること。教科書がない場合は欠席として取り扱うこともある。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948
備考/Remarks	授業は対面で実施予定。
学生へのメッセージ/Message for students	授業で学習した部分を教科書・配布プリント等により確実に復習することが、この授業の内容を理解するために有用である。 また、有機化学に関連するニュース等をチェックしてほしい。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	田中 正一/国立衛生試験所（国立医薬品食品衛生研究所）厚生技官、PMDA医薬品名称委員会委員/実務経験を活かして、有機化合物（薬、プラスチックなど）の有機化学的な観点から生物の営みや自然現象を理解できるための基礎的知識を教授する。/
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	イントロダクション：身近な有機化合物（田中）対面授業
第2回	有機化合物を調べる手順1（田中）対面授業
第3回	有機化合物を調べる手順2（田中）対面授業
第4回	炭素と水素からなる有機化合物1（田中）対面授業
第5回	炭素と水素からなる有機化合物2（田中）対面授業
第6回	炭素と水素からなる有機化合物3（上田）対面授業
第7回	有機化合物の名前の付け方（上田）対面授業
第8回	アルコール・アルデヒド・カルボン酸1、中間試験（上田）対面授業
第9回	アルコール・アルデヒド・カルボン酸2（上田）対面授業
第10回	アルコールやカルボン酸からできる化合物1（上田）対面授業
第11回	アルコールやカルボン酸からできる化合物2（真木）対面授業
第12回	分子の構造を調べる1（真木）対面授業
第13回	分子の構造を調べる2（真木）対面授業
第14回	触媒（真木）対面授業
第15回	合成研究とは（真木）対面授業
第16回	定期試験、総合演習等 対面授業

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586012501	科目番号 / Course code	05860125
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 13111_005		
授業科目名 / Course title	● A11情報の活用 / Fundamental Information Technology		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	丹羽 量久 / NIWA Kazuhisa		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	丹羽 量久 / NIWA Kazuhisa		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	丹羽 量久 / NIWA Kazuhisa		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	I C T基盤センターセミナールーム		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会, 教育, 経済, 薬, 水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	k-niwa▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室 / Office	ICT基盤センター 2階		
担当教員TEL / Tel	095-819-2084		
担当教員オフィスアワー / Office hours	火曜日14:00-16:00 (事前に電子メールで教員と時間調整を行うこと)		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	報告書の作成にあたって, 文書構造を意識した文章の組み立て方法を理解し, 推敲結果の反映, その体裁を整えるといった一連の文書作成作業を容易にかつ効率的に行うために必要な文書作成ソフトの活用方法を習得させる。 また, 数値データを目的に応じて適切な方法で分析し, その結果をわかりやすく表現できるように, 表計算ソフトに備わっている種々の関数機能, グラフ作成機能を習得させる。そして, 与えられた目的に応じてデータ群をどのように可視化するのがよいかを考える発展課題に取り組ませる。		
授業到達目標 / Course goals	デジタル文書作成技法を理解し, 整った報告書(レポート)を効率的に作成できるようになる。[(1)知識・技能, (3)情報リテラシー, (4)論理的組み立て, (5)批判的検討] 表計算技法を理解し, 数値データのデータ分析に応用し, その結果をグラフ等で表現できるようになる。[(1)知識・技能, (2)主体性, (3)情報リテラシー, (4)論理的組み立て, (5)批判的検討]		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■ 汎用的能力 / Generic Competence □ 倫理観 / Ethics □ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■ 主体性 / Autonomy □ 協働性 / Cooperativeness □ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over □ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives ■ C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills □ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □ F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	授業中の演習課題および授業時間外に課す予習・復習・レポートの提出状況とその内容を総合的に評価する。 各単元の配点は, 復習問題: 10点×2, 文書作成技法: 6点×4, 表計算技法: 8点×3, 分析のための可視化: 8点×4の合計100点で, うち60点以上を合格とする。ただし, すべての課題を提出しない場合, 他課題の得点に関係なく, 不合格となることがあるので注意すること。 原則として全回出席を前提とする。ただし, やむを得ず正当な理由で欠席する場合は担当教員に連絡すること。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容 / Preparation & Review	【予習】授業資料を授業前にLACS上にアップするので, 熟読しておくこと。わからない用語について調べるとともに基礎課題に取り組むこと。(2H) 【復習】各単元のレポート課題に取り組むこと。(2H)		
キーワード / Keywords	デジタル文書作成技法, 表計算技法		

教科書・教材・参考書/Materials	【教科書・教材】 情報科学科目「情報基礎」のテキスト,LACS上で提供する教材。 【参考書】 [1] 高杉尚孝:『論理表現力』,日本経済新聞社,2010年6月。 [2] テクニカルコミュニケーター協会:『日本語スタイルガイド 第2版』,テクニカルコミュニケーター協会,2011年4月。 [3] 古郡延治:『論文・レポートの文章作成技法 論理の文章術』,日本エディタースクール出版部,2006年3月。 [4] 富士通エフ・オーエム株式会社:『Microsoft Office Specialist Microsoft Word 365&2019 対策テキスト&問題集』,F O M出版,2020年7月。 [5] 富士通エフ・オーエム株式会社:『Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 365&2019 対策テキスト&問題集』,F O M出版,2020年6月。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	全回出席を原則とする。授業中だけでなく,授業時間外においても,課題および予習・復習等に取り組むこと。 授業には必ずノートパソコンを持参すること。初回授業より利用する。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では,全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため,修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては,担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948
備考/Remarks	LACSのURL https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/ 授業実施方法としては,以下の(1)を原則とするが,状況により(2)もしくは(3)とする場合もある。実施方法に変更がある場合は別途指示する。 (1) 対面授業(教室で直接対面しての授業) (2) リアルタイムのオンライン授業(Webの会議システムを使用した遠隔での授業) (3) オンデマンド授業(用意された動画や(1)(2)の記録を視聴する授業)
学生へのメッセージ/Message for students	自分の考えを相手に伝える際,誤解がないように表現することが重要です。授業では,この観点に立って講義していきます。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	実務家教員名:丹羽量久 実務経験内容: 社会基盤構造物の設計・製作に関する線形/非線形構造解析のコンサルティングおよび技術営業業務,橋梁の自動設計システムのうち変形・応力を計算するソフトウェア群の開発,科学技術やWebに関わるITシステム構築の提案を行う営業業務,既存業務以外の分野における新規事業の開拓・事業化,および関係部署のマネージャーとしての年度計画の立案・数値の管理・統制等の業務。 実務経験に基づく教育内容: 顧客や社内向けの報告書を作成した経験を生かして,いかに相手に伝わるように構成するか(文章構造と論理展開および各種データの可視化)に重点を置き,講義に加えて多数の関連する演習に繰り返し取り組ませる。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	【ガイダンス】 この科目の概要,目的,目標,内容,進め方,評価方法について説明する。 前期開講の情報科学科目「情報基礎」の授業内容に関連した復習課題を指示する。
第2回	【文書作成技法(1/4)】 読者に誤解が生じないように文章表現を明瞭にすることは重要である。文書作成技法の一つとして,論理展開に対応した文の接続に重点を置いて,文書構造を意識して助詞や接続詞を使い分ける方法について講義する。関連する新聞記事等を取り上げた演習により,論理展開に沿った適切な文の接続について考える。
第3回	【文書作成技法(2/4)】 文書データの構造化を意識した文書作成ソフトの活用方法として,Microsoft Wordの機能(アウトライン,スタイル,目次の自動生成)を取り上げる。
第4回	【表計算の復習】 表計算の復習課題に取り組む。
第5回	【文書作成(3/4)】 文書推敲に伴う編集作業を効率的に行えるように検索・置換等の演習に取り組む。さらに,正規表現を使う高度な検索・置換について考える。
第6回	【文書作成技法(4/4)】 一連の文書を複数人で協同作成することを想定して,編集履歴(編集者,時刻,内容等)やコメントを挿入する校閲機能の演習課題に取り組む。 文字のユニバーサルデザインについて取り上げて講義する。

第7回	【表計算技法(1/4)】 「情報基礎」の復習課題のうち，クラス内で理解度が低いと考えられる機能を重点的に解説する。Excel内部の情報処理を意識できるように，一つの課題に対して複数の処理方法を考える演習，すなわち各関数の入力・処理・出力が何であるかを考えて適切に使い分ける演習に取り組む。
第8回	【表計算技法(2/4)】 Microsoft Excelに備わっている関数（統計，データベース等）のうち，実務での利用頻度が高いものを取り上げた演習を行う。 データの件数を数える関数を取り上げる。
第9回	【表計算技法(3/4)】 Microsoft Excelに備わっている関数（統計，データベース等）のうち，実務での利用頻度が高いものを取り上げた演習を行う。 データベース関数を取り上げる。
第10回	【表計算技法(4/4)】 Microsoft Excelに備わっている関数（統計，データベース等）のうち，実務での利用頻度が高いものを取り上げた演習を行う。 複数シートを使う演習に取り組む。
第11回	【分析のための可視化(1/4)】 さまざまな情報の特徴等を考察する際，それらを視覚的に表現することは理解を助けるために有効な手段である。Microsoft Excelに備わっているグラフの種類とその特徴，一般的な準備手順について講義する。 データラベルを活用した散布図，レーダーチャートを描画する演習に取り組む。
第12回	【分析のための可視化(2/4)】 グラフ作成の原則について講義する。複数のデータ系列で校正されるテキスト形式の外部データをMicrosoft Excelに読み込み，容易に比較検討が行えるグラフの描画演習に取り組む。
第13回	【分析のための可視化(3/4)】 円グラフの活用，グラフを用いた分析例について講義する。複合グラフを描画する演習に取り組む。
第14回	【分析のための可視化(4/4)】 総務省統計局が公表する国勢調査の各種データを取り上げる。設定された問題について考察するための効果的なグラフを考え，描画する総合課題に取り組む。
第15回	【クロス集計表の利用】 クロス集計表を容易に操作できるMicrosoft Excelのピボットテーブルを取り上げて，データ群からさまざまな特徴を見出す演習に取り組む。 【総括】

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586012901	科目番号 / Course code	05860129
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 13121_005		
授業科目名 / Course title	● A11情報社会の安全と安心 / Security and Safety in Information Society		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	上繁 義史 / Ueshige Yoshifumi		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	上繁 義史 / Ueshige Yoshifumi		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	上繁 義史 / Ueshige Yoshifumi		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟11 / RoomA-11		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	教育、経済、薬、水産、多文化		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	yueshige▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	ICT基盤センター2階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2254		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月5 (事前にメールで教員と時間調整を行うこと)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	(授業の概要) 私たちは日々ICTに依存する生活を営んでいる。スマートフォンやタブレットから、ネット家電まで、私たちの生活は実体が見えにくいICT機器があふれている。さらに、SNS、オンラインストレージ、Web会議システムといった、ネットサービスを利用している人も少なくないだろう。このことは個人に限らず、社会全体にも共通している。様々な情報がデジタルのデータとなってインターネットを飛び交うようになって、様々なビジネスに活かされている。 ICTによって私たちの生活が便利になった一方、ウイルス、不正アクセス、情報漏えい、不適切な情報発信といった、情報セキュリティの問題を生じさせてきた。この科目では、利用者、技術者、運営者などの視点から、情報セキュリティの問題とどのように向き合い、安心できる状況を作り出していくかを考える力を養う。 授業では、奇数回(第15回以外)で講義を行い、偶数回に授業のまとめ、講義に対応した演習(グループディスカッション・プレゼンテーションなど)を行う。本授業は原則として対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン授業(リアルタイムもしくはオンデマンド)となる場合がある。いずれの場合も、毎回の授業でパソコンの利用が必須である。 (授業の位置づけ) 「情報基礎」の内容のうち、情報セキュリティについて発展的な内容を扱う。		
授業到達目標/Course goals	情報セキュリティの取り組み方について概要を説明できることを到達目標とする。この目標に到達するために、以下のサブ目標を挙げる。 ・情報セキュリティやセキュリティリスクなどの基本的な考え方を説明できる。 関連する全学モジュールの目標：「(1) 知識・技能」「(3) 情報リテラシー」「(5) 批判的検討」「(6) 倫理観」 ・個人情報やプライバシーなどの基本的な考え方を説明できる。 関連する全学モジュールの目標：「(1) 知識・技能」「(3) 情報リテラシー」「(5) 批判的検討」「(6) 倫理観」 ・様々なICT利活用における情報セキュリティ上の課題とその対策の方向性について概説できる。 関連する全学モジュールの目標：「(1) 知識・技能」「(2) 主体性」「(3) 情報リテラシー」「(4) 論理的組み立て」「(5) 批判的検討」「(9) 考えをやり取りする力」		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■ 汎用的能力 / Generic Competence □ 倫理観 / Ethics □ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■ 主体性 / Autonomy □ 協働性 / Cooperativeness ■ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		

学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
/ Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
/ Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
/ Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
/ Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
/ It consists only of lectures from teachers
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	以下の基準に基づいて、総合的に評価を行い、100点満点のうち60点以上を合格とする。 レポート課題：15点（予習・復習の内容等） 授業の取り組み状況：25点（ワークシートやグループディスカッション、プレゼンテーションへの参加状況等） プレゼンテーション：15点（プレゼン資料及び成果発表） 定期試験：45点（LACSにより実施） 課された課題を全て提出しない場合、定期試験の得点によらず、不合格となることがあるので注意すること。
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	本授業は、講義及び講義内容に基づく演習により、知識の修得と課題の探求力、知識の活用能力を学ぶことから、予習・復習が欠かせない。 予習：指示された資料を読んで、分からない所を可能な限り調べ、学習内容をLACSに記録する。（2時間） 復習：適宜課される課題を学習し、LACSに提出する。（2時間）
キーワード/Keywords	情報セキュリティ、情報セキュリティリスク、リスク管理、個人情報保護
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は指定しない。教材として、毎回講義資料（スライド）をLACSを介して配布する。 参考書（一部）： ・瀬戸洋一、高取敏夫、織茂昌之、廣田倫子、「情報セキュリティの実装保証とマネジメント」、日本工業出版、2009年3月 ・青柳武彦、「情報化時代のプライバシー研究」、NTT出版、2008年5月 ・McAfee Labs アンチマルウェアリサーチ 本庄信輔、「PCのウイルスを根こそぎ削除する方法」、技術評論社、2011年10月 ・クリストファー・ハドナジー著、成田光彰訳、「ソーシャル・エンジニアリング」、日経BP社、2012年11月 ・IPUSIRON、「ハッカーの学校 個人情報調査の教科書」、データ・ハウス、2015年12月 ・福田 敏博、「図解入門ビジネス工場・プラントのサイバー攻撃への対策と課題がよくわかる本」、秀和システム、2015年9月 ・日経BPイノベーションICT研究所、「IoTセキュリティ インシデントから開発の実際まで」、日経BP社、2016年6月
受講要件（履修条件）/Prerequisites	授業時間外に予習・復習などの学習（合わせて週当たり4時間以上）を確実に行うこと。 授業には毎回必ずノートパソコンを準備すること。 オンライン授業の場合には、Web会議システムの利用に適した通信環境下で受講するように努めること。 授業が対面、オンラインのいずれで行われるかによらず、原則として全回出席を前提とする。ただし、やむを得ず正当な理由で欠席する場合は担当教員に連絡すること。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業の実施方法については、「授業の概要及び位置づけ」の記載を参照すること。 LACSのURL https://lacs.nagasaki-u.ac.jp
学生へのメッセージ/Message for students	本科目では、予習→授業→復習による学習サイクルを確実に実施することが欠かせない。この学習サイクルを確実に行うことで、「情報セキュリティ」が難解なコンピュータの話などではなく、私たちの生活全般にかかわる身近な事柄であることを学びとってもらいたい。受講者には、授業全体への積極的な参加を望む。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y

実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用） / Name / Details of practical experience / Contents of course	上繁 義史 / 財団法人北九州産業学術推進機構, 財団法人九州システム情報技術研究所にて, 研究員としてIT関連技術の研究に従事 / 情報セキュリティの技術系, 人間系の課題とその対策を中心に多面的な話題について講義・演習を行う。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	【ガイダンス, 情報セキュリティの復習・1】 この授業の目的、到達目標、授業の展開や学習方法、成績評価などを説明する。また、情報基礎の復習として、情報セキュリティ及び情報セキュリティリスクの定義を確認する。
第2回	【ガイダンス, 情報セキュリティの復習・2】
第3回	【情報社会の安全を脅かす脅威の数々・1】 (独) 情報処理推進機構 (IPA) が毎年発行している「10大脅威」を題材として、情報機器やネットサービスの安全な利活用を阻害する技術的な脅威の最新トレンドを学習する。
第4回	【情報社会の安全を脅かす脅威の数々・2】
第5回	【情報を守る技術の基礎・1】 最近利用されている基礎的な情報セキュリティ技術として、暗号、デジタル署名、認証についてその技術的な手法を学ぶとともに、安全性の根拠に関する概要を学ぶ。
第6回	【情報を守る技術の基礎・2】
第7回	【ウイルスは死なず・1】 ウイルスなどのマルウェアについて、歴史的な変遷や種類、機能などを学習する。ウイルス対策ソフトがどのような動作を行っているのか、機能の概要を学習する。
第8回	【ウイルスは死なず・2】
第9回	【ソーシャルエンジニアリングに見る人間のセキュリティ・1】 人間の心理的な脆弱性を突いて、情報を入手したり、破壊したりしようとする攻撃手法「ソーシャルエンジニアリング」がどのように行われるかを学習し、攻撃から身を守るための術を考える。
第10回	【ソーシャルエンジニアリングに見る人間のセキュリティ・2】
第11回	【個人情報、再考—第一級の資料を読む・1】 ある組織において発生した個人情報流出事件では、当該組織も含めて複数の組織による調査が行われ、報告書等の資料が公開されている。これを題材として、組織において(個人)情報の取り扱いに必要なセキュリティの考え方について考える。
第12回	【個人情報、再考—第一級の資料を読む・2】
第13回	【情報技術から見た社会のセキュリティ・1】 IoT (Internet of Things) や生産システムなどの制御システムのように、社会を支える情報システムにおける事故の影響や必要なセキュリティ対策について考える。
第14回	【情報技術から見た社会のセキュリティ・2】
第15回	【総合演習】 全授業の振り返りを行う。
第16回	【定期試験】 LACSを用いて定期試験を行う。

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586007801	科目番号 / Course code	05860078
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 14131_005		
授業科目名 / Course title	●A12環境・生活と化学 / Chemistry in Environment and Life		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	山田 博俊 / Yamada Hirotooshi, 小野寺 玄 / Onodera Gen		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	山田 博俊 / Yamada Hirotooshi		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	山田 博俊 / Yamada Hirotooshi, 小野寺 玄 / Onodera Gen		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟13 / RoomA-13		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部, 多文化社会学部		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	h-yama▲nagasaki-u.ac.jp onodera▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室 / Office	山田: 総合教育研究棟807 小野寺: 工学部1号館3階生物有機化学実験室8		
担当教員TEL / Tel	山田: 095-819-2861 小野寺: 095-819-2679		
担当教員オフィスアワー / Office hours	事前にメールで連絡してください		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	私たちの身の回りには無数の物質が存在するが、それらを構成する原子はわずか100数種類しかない。私たちを取り囲む環境や日常生活におけるさまざまな現象や物質の振る舞いは、一見複雑であるが、それらの多くは原子・分子の性質によって支配されている。これらの現象・物質を化学的観点から学習することで、現象の本質的理解を目指す。		
授業到達目標 / Course goals	地球環境やエネルギー、化学製品や医薬品など、身の回りの現象・物質について原子・分子的観点から説明できる。 化学を通して、自ら学び、考え、主張し、行動することができる。 地球環境と社会の多様性を理解している。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	□汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動 Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	調査・プレゼンテーション50%, レポート30%, 講義への積極的参加20% 全回出席, 発表とレポート提出を原則とする。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学修の内容 / Preparation & Review	予習) 自分のグループが担当するテーマについて精査し、他の学生が理解できるような発表の準備を行う(2h)。 復習) 新聞等で報道されている、学習した課題に関連する事象について、調査しまとめる(2h)。		
キーワード / Keywords	原子と分子, 環境・エネルギー, 有機生命化学, 医薬品合成		
教科書・教材・参考書 / Materials	教科書: 「教養としての化学入門 第2版」, K. Waldron著, 竹内敬人訳, 化学同人 参考書: 「実感する化学(上・下)」, 廣瀬千秋訳, NTS Lucy Pryde Eubanksほか"CHEMISTRY IN CONTEXT: APPLYING CHEMISTRY TO SOCIETY, FIFTH EDITION", McGraw Hill		
受講要件(履修条件) / Prerequisites	高校化学の履修は問わない		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948
備考/Remarks	全講義を対面にて実施予定であるが、状況によりオンラインでの出席を認める場合がある。
学生へのメッセージ/Message for students	地球環境や生活の中には化学にまつわるものがありますが、近年は、真偽が定かでない情報が氾濫しています。情報に惑わされずに適切に判断し、行動する能力を身に着けることが重要です。本講義では、化学的・科学的見地から判断する力を養います。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	山田 博俊（第1回～8回） / 産業技術総合研究所での勤務経験 / 様々なデータベースを活用して、化学を、よりリアルに感じられるように解説する。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	（対面） 講義ガイダンス 第1章：科学的方法、
第2回	【講義】対面 第2章：原子、周期表、中性子、電子、光と原子の相互作用 第3章：すべてのもの、周期表、物質の分類、化合物と化学式、物質の変化
第3回	【学生によるプレゼン】対面 第2章：原子、周期表、中性子、電子、光と原子の相互作用 第3章：すべてのもの、周期表、物質の分類、化合物と化学式、物質の変化
第4回	【講義】対面 第4章：化学結合、化学結合、イオン結合、共有結合、金属結合 第5章：炭素、グラファイト / グラフェン / フラーレン、有機分子、有機官能基
第5回	【学生によるプレゼン】対面 第4章：化学結合、化学結合、イオン結合、共有結合、金属結合 第5章：炭素、グラファイト / グラフェン / フラーレン、有機分子、有機官能基
第6回	【講義】対面 第6章：気体、気体の性質、圧力、モル・温度・体積・圧力、気体の法則 第7章：化学反応、原子の計算、化学量論、化学反応
第7回	【学生によるプレゼン】対面 第6章：気体、気体の性質、圧力、モル・温度・体積・圧力、気体の法則 第7章：化学反応、原子の計算、化学量論、化学反応
第8回	【講義】対面 第8章：水、液体の水、相変化（氷 / 水 / 水蒸気） 第9章：塩と水溶液、他原子イオン、イオン結合の水和、濃度と電気分解、浸透と濃度勾配
第9回	【学生によるプレゼン】対面 第8章：水、液体の水、相変化（氷 / 水 / 水蒸気） 第9章：塩と水溶液、他原子イオン、イオン結合の水和、濃度と電気分解、浸透と濃度勾配
第10回	【講義】対面 第10章：pHと酸性雨、酸・塩基・pHスケール、酸性雨（硫黄酸化物、窒素酸化物）、酸性雨の影響 第11章：原子力、原子核からのエネルギー、半減期、生体と放射能、
第11回	【学生によるプレゼン】対面 第10章：pHと酸性雨、酸・塩基・pHスケール、酸性雨（硫黄酸化物、窒素酸化物）、酸性雨の影響 第11章：原子力、原子核からのエネルギー、半減期、生体と放射能、
第12回	【講義】対面 第12章：エネルギー・電力・気候変動、化石燃料、気候変動、水素エネルギー、太陽エネルギー 第13章：持続可能性とリサイクル、持続可能性とは、プラスチック、ポリマーの物理的性質、持続可能なプラスチック
第13回	【学生によるプレゼン】対面 第12章：エネルギー・電力・気候変動、化石燃料、気候変動、水素エネルギー、太陽エネルギー 第13章：持続可能性とリサイクル、持続可能性とは、プラスチック、ポリマーの物理的性質、持続可能なプラスチック
第14回	【講義】対面 第14章：食べ物の化学、タンパク質、遺伝子工学とGMO、炭水化物、脂肪

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 1, 月 / Mon 2
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586023701	科目番号 / Course code	05860237
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 14121_005		
授業科目名 / Course title	● A12身の回りの中の物理科学 / Physical Science in Everyday Life		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	大嶺 聖 / Omine Kiyoshi, 杉本 知史 / Sugimoto Satoshi		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	大嶺 聖 / Omine Kiyoshi		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	大嶺 聖 / Omine Kiyoshi, 杉本 知史 / Sugimoto Satoshi		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟13 / RoomA-13		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	omine▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	工学部1号館3階306号室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2621		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜日 3校時。なお、事前にメールでアポイントを取って頂ければ常時O.K.です。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	受講する学生が親になった時に、子供に対して「物理なんかややこしいからやめとけ!」などの理科離れを助長するような助言をしないように、身近なものを対象に物理学の必要性やおもしろさを理解してもらうことを目標とする。		
授業到達目標/Course goals	身の回りの物理学に関わる現象に好奇心を持ち、なぜそのような現象が生じるのかについて、文系や理系に関わらず説明しようとする意欲を持てるようになること()。 身の回りの生活に関わる、力やエネルギー、流れや波などに関する基本法則を学び、それらを利用した身の回りの現象を理解できること()。 自然現象は、私たちの生命維持に不可欠な食料・資源の源になったり、時には甚大な災いをもたらすこともあることを認識できること()。 科学的な思考法と方法論の基礎に触れ、身の回りの生活や先端科学技術と自然科学との関わりを理解し、お互いにこのことを議論できること()。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness ■考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	講義への積極的参加(30%)、レポート課題およびグループ発表課題の評価(70%)の総合点で評価する。ただし、課題の点数が平均6割以上を条件とする。出席日数が足りない場合は不可。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	予習: 予め授業のテーマを自分で調べたうえで、授業にのぞむこと(2h) 復習: 授業の内容を振り返り、疑問点をさらに調べるなど理解を確実にするように務めること(2h)		
キーワード/Keywords	速度、加速度、自然エネルギー、自然災害、斜面崩壊、地球温暖化、物質循環		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は使用しない。適宜、資料を配するとともに、参考書を紹介する。		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	特になし。ただし、高校在籍時に「物理」を選択していない学生を対象とした授業を行う。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948
備考/Remarks	すべて対面で授業を行います。
学生へのメッセージ/Message for students	中学や高校の頃、物理特に力学が分からなかったり、苦手だった学生みなさんに受講してもらうことを前提に講義を準備しています。教養として、物理に対する抵抗を、自ら少しでも取り除いてもらえればと思います。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1回	受講ガイダンス、概説、物理科学の基礎
2回	ガリレイの発見、ニュートンの力学、環境問題との関係
3回	速度・加速度・振り子について
4回	バネの動きとジェットコースターのメカニズム
5回	圧力と流体について
6回	摩擦力について
7回	建物の揺れを制御する：免震・制震・耐震
8回	ペーパータワー（コンテスト）
9回	自然災害から身を守るために
10回	自然災害から身を守るために
11回	構造物の安定：軟弱地盤、補強、リサイクル材
12回	最強の橋を作れ（コンテスト）
13回	森・川・海における物質循環と人との関わり：グループ討議
14回	地球温暖化と地盤環境問題
15回	再生可能エネルギーと地域の課題：グループ討議・発表

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 1, 火 / Tue 1
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586009301	科目番号 / Course code	05860093
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 12911_005		
授業科目名 / Course title	● A13生物多様性を考える / An Introduction to Biodiversity Studies		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	井口 恵一郎 / Iguchi Keiichiro, 山口 典之 / Yamaguchi Noriyuki, 関 陽子 / Seki Yoko		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	井口 恵一郎 / Iguchi Keiichiro		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	井口 恵一郎 / Iguchi Keiichiro, 山口 典之 / Yamaguchi Noriyuki, 関 陽子 / Seki Yoko		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育G棟38 / RoomG-38		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	keyichi▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	環境科学部3階317		
担当教員TEL/Tel	819-2745		
担当教員オフィスアワー/Office hours	空いている時間ならば随時		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	生物多様性に関する基礎知識を学ぶとともに、保全生物学における生物多様性の応用例を紹介し理解を深める。生物多様性にかかわる文化的多様性と倫理の問題について理解を深める。		
授業到達目標/Course goals	(1) 保全生物学の視点から、生物多様性の意味が理解できるようになる。 (2) 政策上の視点から、生物多様性の意味が理解できるようになる。 (3) 生態学の視点から、生物多様性の意味が理解できるようになる。 (4) 以上をつうじて、持続可能性に資する提案を行うに足る創造力を養う。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ■ 倫理観 / Ethics ■ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ■ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	内容理解確認小論文、試験およびレポート(100%、ただし配分は教員によって同じではない)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	参考書等を用いて授業内容に関連のある部分について予備知識を身につけ、自分なりの問題意識を醸成した上で授業にのぞむこと(2hr)。授業のなかで与えられた課題について、文献調査等を加味しながら、理解を確実にするように努めること(2hr)。		
キーワード/Keywords	生物多様性 生態系 環境思想		
教科書・教材・参考書/Materials	R. プリマック著 「保全生物学のすすめ」文一総合出版 樋口広芳編 「保全生物学入門」東京大学出版会 鷲谷いづみ・矢原徹一「保全生態学入門」東京大学出版会 吉田謙太郎著 『生物多様性と生態系サービスの経済学』昭和堂 Millennium Ecosystem Assessment (編), 横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会(訳)(2007) 生態系サービスと人類の将来-国連ミレニアムエコシステム評価, オーム社。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites	テキストは特になし。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948
備考/Remarks	全回対面を予定
学生へのメッセージ/Message for students	報道関係や書籍でも生物多様性について取り上げているものが多く見られます。目や耳にした時には、その内容を吟味することで、学習効果が更に上がります。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	ガイダンス（井口）
第2回	大量絶滅時代（井口）
第3回	里山考（井口）
第4回	外来生物（井口）
第5回	希少生物（井口）
第6回	遺伝的多様性：その成因と機能（山口）
第7回	種多様性：種の創出機構と維持機構（山口）
第8回	絶滅：環境要因、競争排除、生息地消失、外来種問題（山口）
第9回	生態系多様性：生態系の構造と複雑性、複数生態系のつながり（山口）
第10回	ミレニアム生態系評価：生態系の機能とサービス、人間の福利との関係（山口）
第11回	文化的多様性としての生物多様性：「意味づけられた自然」について（関）
第12回	生物と人とのかわり—捕鯨・鯨食の歴史（関）
第13回	生物と人とのかわり—捕鯨・鯨食の歴史（関）
第14回	環境倫理からの動物保護（関）
第15回	生物多様性のための《環境道德》とは（関）
第16回	予備

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 2, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586008101	科目番号 / Course code	05860081
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 12931_005		
授業科目名 / Course title	●A13地球温暖化を考える / Introduction to Global Warming		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	和達 容子 / Wadachi Yoko, 河本 和明 / Kawamoto Kazuaki, 小山 光彦 / Koyama mitsuhiko, 高尾 雄二 / Takao Yuji		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	和達 容子 / Wadachi Yoko		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	和達 容子 / Wadachi Yoko, 河本 和明 / Kawamoto Kazuaki, 小山 光彦 / Koyama mitsuhiko, 高尾 雄二 / Takao Yuji		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育G棟38 / RoomG-38		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	ywadachi ▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	河本(環231-2), 高尾(環323), 和達(環434)		
担当教員TEL/Tel	和達 (095-819-2729)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	和達 火曜日14:30~15:30		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	温室効果に伴う気象および気候の変化を学ぶ。また、関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国家間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状、地球温暖化の生態系への影響やバイオマス利活用等を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。		
授業到達目標/Course goals	・地球温暖化のメカニズムや主要因を説明でき、他人と議論し意見交換ができるようになる。(1,3,4,9) ・将来および現在のエネルギー問題の概要を理解し定見交換ができるようになる。(1,5,9) ・地球温暖化の生態系への影響やバイオマス利活用等について理解できるようになる。(1,5,9) ・国際的な取り組みの概要を説明できるようになる。(1,4,5,7,10)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☒ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	予習も含めて授業への積極的な参加(20点)、期末試験(80点) 班による活動を中心とした授業形式であるため休みがちな人は班員に多大な迷惑が生じますので、欠席と未予習に対しては厳しい評価をします。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習: シラバスに記載された各回の題材について基礎知識を得て、疑問点を整理しておく。(2h) 事後学習: 扱った題材の内容、関連する専門用語・キーワードを十分に説明できるよう復習する。(2h)		
キーワード/Keywords	温室効果, 地球温暖化, 化石燃料, 炭素固定, 国際交渉		
教科書・教材・参考書/Materials	特に指定はなし。予習時に各自で調べる。必要があれば配布する。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites	LACSを使って予習課題の確認。レポート提出などの作業があります。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948
備考/Remarks	原則として対面形式で実施します。状況によって変更する回もあり得ますので、その場合はLACSで連絡します。
学生へのメッセージ/Message for students	講義スケジュールについては第1回の講義で説明します。 班行動や宿題があります。欠席については厳しい評価をします。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション 概要と進め方等の諸注意
第2回	地球大気の諸特性
第3回	気候を決める仕組み
第4回	気候変動の要因
第5回	将来の気候
第6回	閉じた地球と化石燃料
第7回	燃焼と大気汚染，さまざまな発電方式の比較
第8回	地球温暖化の生態系への影響
第9回	バイオマス利活用技術
第10回	生物による炭素固定技術
第11回	地域資源の活用による脱炭素型地域づくり
第12回	国際社会と地球温暖化問題
第13回	国際条約とその交渉（１）
第14回	国際条約とその交渉（２）
第15回	地球温暖化対策と私たちの選択

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 1, 火 / Tue 2
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592001701	科目番号 / Course code	05920017
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●A14海洋食料資源の応用 / Applied Science of Marine Food Resources		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	市川 寿 / Ichikawa Hisashi, 濱田 友貴 / Hamada Yuki, 谷山 茂人 / Taniyama Shigeto, 王 曜 / Wang Yao		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	市川 寿 / Ichikawa Hisashi		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	市川 寿 / Ichikawa Hisashi, 濱田 友貴 / Hamada Yuki, 谷山 茂人 / Taniyama Shigeto, 王 曜 / Wang Yao		
科目分類 / Course Category	教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育C棟16 / RoomC-16		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	濱田 yuhamada▲nagasaki-u.ac.jp、谷山 tshigeto▲nagasaki-u.ac.jp、王 wangy▲nagasaki-u.ac.jp、市川 ichinon▲nagasaki-u.ac.jp、(メールを送信する際は、▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	谷山と王(水産学部新新館3階)、市川と濱田(水産学部新館2階)		
担当教員TEL/Tel	濱田(2854)、谷山(2842)、王(2837)、市川(2845)、		
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業の前後、またはLACSのメールで随時		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	最近の食糧事情やどのような食品をどのくらい私たちは摂取する必要があるのかを知った上で、水産食品(マリンフード)の成分とそれらの変化、マリンフードの多彩さとそれらの製造方法、さらには衛生管理・安全確保に関わる諸問題を理解し、食にまつわる今日的な課題にどう対処したら良いかを自ら考えることができる素養を身につける。まとめとして、長崎という地域に根ざした、あるいはここに関わりを持つ食の問題を掘り起こし、自らの提言を考え、それを受講者同士で議論できる能力と、他者に向けて発表・発信できる能力とを身につける。		
授業到達目標/Course goals	海洋食糧資源に関わる基本的な事項を、1)受講生相互に啓発しながら学び、2)他者とのコミュニケーションを図って深め、3)第3者に正しく伝達する能力を獲得する。 自主的に取り組む能力や思考方法を身につけ、学修事項を基にして意欲的にグローバルな社会貢献や地域貢献(特に長崎)ができるようになる事を期待する。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	□汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity □主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness ■考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	課題発表とディスカッション(50%)と、その資料となるテーマに関するレポート(50%)の成績を合計し、100点満点で評価する。60点以上の得点者に単位を認定する。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	特段の事前学習が必要な場合は授業回毎に指示を行う。事後学習は、授業をきっかけとして関連事項を調べ、用いた書物や文献情報とともにまとめること。授業をきっかけとして、理解を深めるために更なる自己学習を行っていただきますが、試験は設定したテーマに関するまとめ発表(パワーポイントを使った口頭発表)の形式です。発表内容を受講者同士でまとめ、考える作業が含まれます。総計で60時間以上の自主学習を行って頂くことを前提としています。		
キーワード/Keywords	食品機能、食品成分とその変化、安全性、食糧事情と海洋食糧資源、地域貢献(長崎地域およびグローバル)		

教科書・教材・参考書/Materials	参考書;食品化学-目で見る食品成分とその変化-(高野克己 他、三共出版、2005、4-7827-0509-3)、基礎から学ぶ食品科学(渡邊悦生 他、成山堂書店、2010、4-425-89001-9)、食品衛生学第三 版(山中英明 他、恒星社厚生閣、2012、4-7699-1268-2)、水産食品学(須山三千三 他、恒星社厚生閣、1987、4-7699-0592-9)	
受講要件(履修条件)/Prerequisites		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL)095-819-2006(FAX)095-819-2948	
備考/Remarks	全回対面で実施予定。	
学生へのメッセージ/Message for students	最終段階で「長崎地域に何らかの関わりを持つ海洋食糧に関する問題を取り上げた発表とディスカッション」参加が試験にあたりますので、出席が必須です。それに先立って、その元となる資料をまとめる「課題提出」も成績評価事項ですので留意して下さい。なお、レポート等の提出は基本的にLACS経由での提出となりますので、指示に従ってPCを準備・持参する事。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N	
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course		
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 /
第1回	我が国の食糧事情(長崎県の事情を含めて学修)	A
第2回	食の安全と安心(長崎県の事例を通して学修)	A
第3回	食に求められるものの変遷	A
第4回～第7回	水産食品の基礎的なトピックス	A
第8回	まとめ課題の作成と提出(食糧資源に関する課題の抽出とそれに対する意見を論述し提出)	A D
第9回～第13回	水産食品の実践応用的トピックス(一部で長崎県の事例を通して学修)	A
第14回～第16回	課題発表とディスカッション(受講者数によって日数が決まります)	A B D

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 2, 火 / Tue 1
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592001501	科目番号 / Course code	05920015
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●A14人から見た水産業 / Fishing Industry from Human Beings' Perspective		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	亀田 和彦 / Kameda Kazuhiko, 山本 尚俊 / Yamamoto Naotoshi, 清水 健一 / Shimizu Kenichi		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	亀田 和彦 / Kameda Kazuhiko		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	亀田 和彦 / Kameda Kazuhiko, 山本 尚俊 / Yamamoto Naotoshi, 清水 健一 / Shimizu Kenichi		
科目分類 / Course Category	教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育C棟16 / RoomC-16		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	亀田 : kameyan▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください) 山本 : nao-yama▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください) 清水 : kshimizu▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	水産学部新々館2F(亀田)、同(山本)、水産学部本館3F(清水)		
担当教員TEL/Tel	亀田(2807)、山本(2802)、清水(2805)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業後の在室時。事前の相談によっては時間帯の変更は可。また、研究室に来られた際に多忙であれば、その旨をお伝えします。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	私たちの社会が魚を利用する際には、漁船や漁具(ぎょぐ/魚を獲る道具)・漁法(ぎょほう/魚を獲る方法)という対象生物と水界の特性にじゅうぶん対応できる道具・能力・効率性の他に環境への配慮や安全性が欠かせません。また、漁獲という行為に注目すると、魚を流通させ経済的な価値を作る、という視点が欠かせません。こうしたことに注目しながら、主に、大きく時代をさかのぼることができる道具を作りそれを使いこなす能力(漁具や漁船の歴史)、魚を獲るという行為に関する経済学としての見方の話題を提供します。生物資源との共存が根底にある授業ですので、高等学校での生物・物理・公民などと関わりがあります。		
授業到達目標/Course goals	上記の授業の概要とそれによって関心を持った事について、 ・その歴史や技術的な背景を知り(基盤的理解、環境の意義、多様性の意義。本学DPの「分野・領域を越えて活用できる汎用可能な技能を身につけている」を重視。()、 ・現状を理解し(現代的な話題を取り入れる。本学DPの地球環境と社会の多様性を理解している)を重視。()、 ・その将来を考えることができるようになる(自主的探求、批判的思考、日本語力。本学DPの「地域社会および将来世代に貢献するグローバルな視点を身につけている」を重視。()、 ことを到達目標としています。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	□汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness ■考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	定期試験は行わず、次のことをもとにして成績を評価します。 ●各回の積極的な参加の様子とレポートから総合的に評価<亀田、山本>。 ●アクティブラーニングに関する成果(30%)と課題レポート(70%)に取り組む姿勢<清水>。 3人の教員が担当するパートごとの成績を決めます。 つぎに、これらをもとにしてこの授業としての成績を成績評価ガイドラインに沿って求めます。 ですから、3人の教員それぞれの担当パートごとに合格できる成績を得よう、努力してください。		

各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照	
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	必要に応じて案内しますが、事前学習（予習に2h）は、授業内容に関する情報を集めること（知っておくことを増やす）のほかに、例えば指示されたレポートなど講義時間以外に対応する必要があることについて関連情報を集め正しくそれらを読み取る（理解し問題となることを見つける）ことなども、次回につながる勉強に該当します。事後学習（復習に2h）については、学習したことに関するレポートを指示されたらそれをやり遂げること、そうしたレポートの指示がない場合は、学修内容を整理して内容の理解ができているかどうかを確認することなどが該当します。	
キーワード/Keywords	漁具・漁法、人とその社会、水産業（漁業）、道具と技術、船と航海、漁船漁業、資源（水棲生物）と環境、食料問題、持続的生産	
教科書・教材・参考書/Materials	定めません。参考になる書籍などは必要に応じて授業中に紹介します。教材は必要に応じて印刷物を配ることがあります。	
受講要件（履修条件）/Prerequisites	次の4点を重視してください。a)講義に積極的に参加する意志があること。b)出された課題に真摯に取り組むこと。c)授業で得た「気づき」を実社会で応用できるようにしようと考え、d)それを学修成果にあらわすこと。	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 。アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948	
備考/Remarks	第1～5回のうち1回を調べ学習に充てることを考えています。これは、授業中に指示しますが、皆さんが「自ら情報を集め、考え、説明できるようになる」ための機会として位置づけます。 授業は対面形式を基本といたしますが、状況に応じて、対面方式とリアルタイム オンライン形式の併用で実施いたします。このことを含んで、授業の実施方針や 計画については初回の授業でお伝えいたします。また、授業にオンライン方式を 取り入れる際は、必要に応じてLACSを介してお伝えすることもあります。	
学生へのメッセージ/Message for students	漁業協同組合、漁業者、水産業、漁船、漁業の対象となる生物、資源管理型漁業、海洋生物資源と私たちの共生関係（例えば、魚食、海に生きる暮らしなど、切り口は以外とたくさんあります）などに関する情報に目を通したり書籍を読んでおくことが役に立ちます。	
実務経験のある教員による授業科目であるか（Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y	
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	亀田 和彦/a)貿易と学習塾経営が主業の事業所に勤務。b)経済活動と漁業制度の面から途上国の資源管理型漁業普及に関する短期専門家。/前者の経験を、“考え理解する手順”を教育に活用。後者の経験は漁業生産・水産加工流通・水産物の付加価値形成・水産制度の理解に活用。/ 山本 尚俊/大都市中央卸売市場仲卸組合での販促・広報業務、漁協系統組織及び家業(水産仲卸)での商品企画・販売実務経験、21世紀COEプログラムに基づくクロマグロ等の養殖産業化に関わる流通・経済調査研究経験等/養殖業・水産物の貿易と流通・水産制度を理解するための調査方法と状況分析方法を教えることに活用。/ 清水 健一/附属練習船での航海士経験/実務経験に基づき、索星、天気図の見方を実船での経験や図表も含めて本授業科目に必要な基本的知識を講義する。/	
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 /
第1回	この授業で学ぶことと学び方の説明 授業の方針、学び方や注目すべき事を知ることができます。 第5回までの「学生の思考を活性化させるための授業手法」については、授業中に伝えます。	A
第2回	生物の進化からサカナとヒトを見る 資源共生を考えるきっかけを得ることができるようになります。	A C
第3回	遺跡から出土した「釣り針」から、生物資源と向き合う道具や技術を考える 手に入れたいサカナに合わせて道具を作り、その道具を適切に使う技術があったからこそ、「釣り針」に意味があります。このことから道具や技術を考えることができるようになります。	A B C
第4回	世界の海で水産資源を探してきた経験 人類の側の都合で水産資源を探し求めた事例を知り、生物資源共生を考えることができるようになります。	A B C
第5回	世界、日本、長崎県の海・漁業・船が作り上げてきたものを考える 海や船は有形・無形の文化を交流させるツールでもあり、水産資源との共生の最前線に立つツールでもあります。幅広い「つながり」の例から、多様性の大事さを考えられるようになります。	A B C

第6回	水産資源の特徴と利用 第10回までの「学生の思考を活性化させるための授業手法」については、授業中に伝えます。 無主物である水産資源に関して、自発的に考えることができるようになります。	A B C
第7回	環境問題と我々の食 水産資源は、環境問題を知り「食料資源問題」を考える格好の素材であることを示すので、現代の重要課題を自ら考え掘り下げる学びにつなげてください。	A B C
第8回	資源問題と我々の食 前回に続いて、水産資源を例に「資源とは何なのか」を食を通して考えることができるようになります。	A B C
第9回	技術革新とその功罪 人類都合の技術革新がもたらす「光と影」を考えることができます。	A B C
第10回	資源・環境との共生・共存のもとでなりたつ我々の食 生物資源の側を考慮しない資源利用は必ず破綻すること、そのことが人類社会の終焉につながることを学修することができます。	A B C
第11回	船・造船の歴史と技術の発達 第15回までの「学生の思考を活性化させるための授業手法」については、授業中に伝えます。 船とは何か、造船の略史、造船、船舶構造などに関わる技術の歩み、を知ることができます。	A B C
第12回	航海・航海計器の歴史と技術の発達 航海することに注目して、その道具と技術の発展過程を知り考えることができるようになります。	A B C
第13回	漁船漁業発達の歴史 船舶のうち、水産資源を獲るための船に注目します。漁船漁業とは何か、単に航行技術の展開だけではなく生物特性を加味しなければ理解できないとの観点からの発展過程の評価を知り、これを自ら考えることができます。	A B C
第14回	現代の漁船漁業と漁業資源 前回の授業で触れた略史の上に、現代の漁船漁業とこれによる漁業資源利用が成り立っています。これらの現代的意義あるいは現代的な問題は何か、を考えることができます。	A B C
第15回	近未来の漁船漁業と資源管理の展望 人類と水産資源（水棲生物資源）とは、いつまでも共存し続けることが人類社会の発展に不可欠な条件です。こうしたことについて、近未来の展望を知り、考えることができます。	A B C
第16回	これまでの授業の経験が積み上げられて成果を生み出していることを確認します。場合によっては、これまでの授業で消化できなかったことを重点的に取り扱うこともあります。	A B C

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 1, 火 / Tue 1
開講期間 / Course duration	2023/09/28 ~ 2023/11/27		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230586027101	科目番号 / Course code	05860271
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMA 15051_005		
授業科目名 / Course title	●A15国際環境法 / International Environmental Agreements		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	竹下 哲史 / Takeshita Satoshi, 山下 敬彦 / Yamashita Takahiko, 久保 隆 / Kubo Takashi		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	竹下 哲史 / Takeshita Satoshi		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	竹下 哲史 / Takeshita Satoshi, 山下 敬彦 / Yamashita Takahiko, 久保 隆 / Kubo Takashi		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟34 / RoomB-34		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	juniper▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	研究開発推進機構 2F		
担当教員TEL/Tel	095-819-2227		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールで問い合わせ		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	環境問題に対する考え方, 環境法(国際法)の歴史と特質を理解させるとともに, 環境問題の基本的考え方や国際環境法の理念・精神を理解させ, 人類の持続可能な発展を実現するための基本的な知識と姿勢を身につけさせる。合せて, 自主的探求能力や日本語コミュニケーション能力の向上等を目指す。		
授業到達目標/Course goals	環境問題に対する考え方, 環境法(国際法)の歴史と特質を理解させる。国際環境法の理念・精神を理解させる。 主に, 全学モジュールの目標の , , , , に対応する。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	確認試験30%, 主体的学習・レポート70%で評価し, 60%以上を合格とする。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学修の内容/Preparation & Review	事前に関係する資料に目を通しておく(平均2時間)。講義終了後にはレポート作成の準備を行う(平均2時間)。		
キーワード/Keywords	環境マネジメント, 国際環境法		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は使用しない。教材はPDFファイルで提供する。参考書は適宜紹介する。		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	特にありません。		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では, 全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため, 修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては, 担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948		
備考/Remarks	全ての回を対面で実施します。		
学生へのメッセージ/Message for students	興味を持って参加してもらうことを期待しています。		

実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	ガイダンス：科目の概要，狙い，位置づけ，到達目標，授業の方法，各単元の到達目標，評価方法等を理解する．
第2回	1．環境問題をどのように考えるか：環境問題とは？環境をどのように考えるか？（環境に対する基本的な考え方，環境倫理）等について考え，それらを簡潔にまとめる．
第3回	2．国際環境法の歴史と特徴：二国間における紛争の平和的解決の条約から「部門別アプローチ」の国際環境法を経て，国際共同体全体の利益を管理する仕組みへと移行した歴史と，現代の国際環境法の特徴等を理解し，簡潔にまとめる．
第4回	3．人間環境宣言：二国間における紛争の平和的解決のための条約から「部門別アプローチ」のタイプの国際環境法への転機となった国際連合人間環境会議における「人間環境宣言」の主旨を理解し，簡潔にまとめる．
第5回	4．第一世代の国際環境法：第一世代の代表的な国際環境法であるラムサール条約，ユネスコ世界遺産条約及びワシントン条約の主旨を理解し，簡潔にまとめる．
第6回	5．第二世代の国際環境法（その1）：第二世代の代表的な国際環境法のうち，ウィーン条約とそれに附属するモントリオール議定書の主旨を理解し，簡潔にまとめる．
第7回	5．第二世代の国際環境法（その2）：第二世代の代表的な国際環境法のうち，バーゼル条約の主旨を理解し，簡潔にまとめる．
第8回	5．第二世代の国際環境法（その3）：第二世代の代表的な国際環境法のうち，気候変動枠組条約及びその第3回締約国会議で作成された京都議定書の主旨を理解し，簡潔にまとめる．
第9回	5．第二世代の国際環境法（その4）：第二世代の代表的な国際環境法のうち，生物多様性条約及びそれに附属するカルタヘナ議定書の主旨を理解し，簡潔にまとめる．
第10回	5．第二世代の国際環境法（その5）：第二世代の代表的な国際環境法のうち，ロッテルダム条約及びストックホルム条約，水銀条約の主旨を理解し，簡潔にまとめる．
第11回	6．ソフト・ロー（その1）：ソフト・ロー的な法的拘束力のない文書の役割とそれらの文書のうち，世界自然憲章，森林原則宣言及び環境と開発に関するリオ宣言の主旨を理解し，簡潔にまとめる．
第12回	6．ソフト・ロー（その2）：ソフト・ロー的な法的拘束力のない文書のうち，アジェンダ21及び持続可能な開発に関するヨハネスブルク宣言の主旨を理解し，簡潔にまとめる．
第13回	7．非政府組織の参加と国際環境法の課題：現代の国際環境法の特徴の一つである私的アクター，すなわちNGO（非政府組織）の存在とその組織及び活動について理解を深める。また，気候変動枠組条約と途上国，国際環境法間の連携，環境と貿易などの国際環境法の課題を理解し，簡潔にまとめる．
第14回	演習
第15回	テスト・レポートのまとめ：テストによる知識の定着の確認を行う。また，環境法（国際法）と環境問題への取り組みのまとめを完成させる。ポイント：もれなく，ダブリなく，分かりやすく簡潔に自分の言葉でまとめる．

学期 / Semester	2023年度 / Academic Year 4クォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 1, 火 / Tue 1
開講期間 / Course duration	2023/11/28 ~ 2024/02/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20230592001901	科目番号 / Course code	05920019
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● A15国内環境法 / Domestic Environmental Laws		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	竹下 哲史 / Takeshita Satoshi, 山下 敬彦 / Yamashita Takahiko, 久保 隆 / Kubo Takashi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	竹下 哲史 / Takeshita Satoshi		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	竹下 哲史 / Takeshita Satoshi, 山下 敬彦 / Yamashita Takahiko, 久保 隆 / Kubo Takashi		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目, 教養モジュール		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟34 / RoomB-34		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	juniper▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室 / Office	研究開発推進機構 2F		
担当教員TEL / Tel	095-819-2227		
担当教員オフィスアワー / Office hours	メールで問い合わせ		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	日本における環境問題とそれらに対する対策の考え方や歴史, 国際環境法との関係を理解させる。 「環境基本法」及び国内の主な環境関連法の主旨を理解させるとともに, 環境コミュニケーションの重要性を理解させ, 人類の持続可能な発展を実現するための基本的な知識と姿勢を身につけさせる。併せて, 自主的探求能力や日本語コミュニケーション能力の向上及び社会貢献意欲の醸成等を目指す。		
授業到達目標 / Course goals	日本における環境問題とそれらに対する対策の考え方や歴史, 国際環境法との関係を理解する。 「環境基本法」及び国内の主な環境関連法の主旨を理解する。環境保全や環境コミュニケーションの重要性を理解する。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ■ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	主体的学習20%, レポート80%で評価し, 60%以上を合格とする。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学修の内容 / Preparation & Review	環境問題に関するニュースや新聞記事に目を通しておくこと (2h)。 授業後は, 授業で提示した資料を基に復習を行い, 授業内容をまとめることで知識の定着を行う (2h)。		
キーワード / Keywords	日本の環境問題, 環境対策の考え方, 国際環境法との関係, 環境基本法, 環境基本計画, 環境関連法, 環境配慮, 環境コミュニケーション, 日本のエネルギー事情		
教科書・教材・参考書 / Materials	教科書は使用しない。教材はPDFファイルで提供する。参考書は適宜紹介する。		
受講要件 (履修条件) / Prerequisites	特にありません。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	全ての回を対面で実施します。
学生へのメッセージ/Message for students	日本の将来を担う皆さんにとって、環境問題は避けて通ることができません。積極的に取り組んでくれることを期待しています。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	【日本の環境と環境政策】 日本における環境問題とそれらへの対策の考え方や歴史、さらに国際環境法との関係等を理解する。
第2回	【環境基本法】 日本における環境に関する基本的法律である環境基本法の概要、目的、基本理念及び各主体の責務を中心に理解する。
第3回	【環境基本計画】 日本における環境政策の基本である環境基本計画の概要を中心に理解する。
第4回	【第五次環境基本計画】 現在期間中である第五次環境基本計画の主旨を理解する。
第5回	【循環型社会の形成】 環境基本法の下位法である循環型社会形成推進基本法及び循環型社会形成推進基本計画の概要、目的等を理解する。
第6回	【生物多様性の確保】 環境基本法の下位法である生物多様性基本法の概要、目的、基本原則等を理解する。
第7回	【日本のエネルギー事情】 日本のエネルギー事情について学ぶ。
第8回	【エネルギー政策】 エネルギー政策の大きな方向性を示すエネルギー政策基本法について、その基本方針と各主体の役割分担等について理解する。
第9回	【エネルギー使用の合理化】 省エネ法（エネルギー使用の合理化に関する法律）の主旨を理解する。
第10回	【オゾン層の保護に関する法律】 オゾン層保護法（特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律）の主旨を理解する。
第11回	【地球温暖化対策】 温対法（地球温暖化対策の推進に関する法律）の主旨を理解する。
第12回	【廃棄物の処理】 廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）の主旨を理解する。
第13回	【環境物品等】 グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進に関する法律）の主旨を理解する。
第14回	【化学物質の管理】 PRTR、化管法（特定化学物質の排出量の把握等及び管理の促進に関する法律）の主旨と、化学物質等安全性データシートの概要を理解する。
第15回	【環境への配慮と環境報告書、まとめ】 環境配慮促進法（環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律）の主旨を理解する。さらに、長崎大学環境報告書等を例に、環境コミュニケーションの重要性について理解を深める。